

家忠日記

二輯

三

和書門		
二八四九八	號	類
一九四	函	
一三	冊	

內閣文庫		
二八四九八	冊	類
一九四	函	
一三	冊	

內閣文庫		
番號	和	28498
冊數	8 ( 3 )	
函號	163	68





家忠日記追加卷之六

自天正六年  
至同九年

天正六年戊寅

正月大

十六日 大神君三列世崎ノ城ニ渡御了リ松

平主殿助家忠世崎ニ参候了リ大神君ニ謁

此月織田信長正二位ニ叙ス

二月小

四日 遠三両国大雪降積リ其深キ了四尺余

十八日 遠及濱松ノ城經始

三月大



一月 濱松ノ城ノ經營ヲ止ラレ近日駿及田  
中ノ城ニ御突向シ催サル

七月 太神君掛川ニ陣シ玉フ

八月 太神君掛川ヨリ大井川邊ニ御陣ヲ移  
サル

九月 太神君兵シ田中ノ城ニ突シ玉ヒ城ヲ

圍テ攻メ撃タシメ玉フ前夜鷄鳴ノ暇ニ及テ

酒井与九郎内藤甚五左衛門尉熊谷小一郎小

栗又一郎城壁ニ忍ヒ寄テ城中ヲ窺ヒ先登テ

ニト欲ス城中ヨリ伏兵ヲ外郭ニ出シ置テ守

ラシム此伏兵一同ニ起テ是ヲ拒クノ間酒井

内藤熊谷小栗等挑戦テ敵ヲ城中ニ追ヒ入ル

此由 太神君ノ上岡ニ達ス 命有テ曰ク軍

令ヲ背テ援懸スルノ条曲変タル由各四人

御勅氣ヲ蒙ル天正九年高天神ノ城陥ル御味

方ノ軍勢田中ノ城外郭ヲ破テ競ヒ攻ム武田

カ兵奮ヒ戦テ是ヲ拒ク松平主殿助家忠カ後

士佐野治助行家彦十郎カ戦ノ首級ヲ得タリ

戸田三郎右衛門尉忠次カ軍士黒田次郎右衛

門尉安方半兵衛尉岸上勘三郎福井源藏光登

門尉安方半兵衛尉岸上勘三郎福井源藏光登



ノ能ク戦フ

十日 太神君牧野ノ城ニ御陣座

十三日 太神君ノ兵小山ノ城ヲ攻ム

此日 謙信上杉輝入道卒去四十九景勝次平ト景虎三郎

因テ争テ相ヒ戦フ景勝景虎ヲ殺シテ遂ニ立

ツ謙信子ナキ故ニ北条氏康カ男景虎ヲ子ト

十八日 牧野ノ城經營成ル是ニ依テ

太神君濱松ニ取リ玉フ

四月大

十七日 三郎信康三及置崎ノ城ヨリ濱松ニ

五

来テ城ニ登テ 太神君ニ謁見アリ

十八日 三郎信康濱松ヲ出テ置崎ノ城ニ取

リ玉フ

七月小

三日 太神君ノ台命ヲ奉テ松平主殿助家

忠遠及横瀬賀ノ城取出ノ要害ヲ築ク残暑

甚夕苦勞タルノ由 太神君ヨリ御使ヲ被下

是ヲ勞ラヒ玉テ凡ヲ家忠ニ賜ル

八月小

七日 牧野ノ城番西郷孫九郎家貞ニ代テ松



平甚太郎家忠是ヲ勤ム

八日 大須賀五郎左衛門尉康高々天神ノ城  
下国安河ノ边ニ軍ヲ発シテ武田カ兵ト戦ハ  
シム武田カ軍勢利ヲ失テ敗北ス康高カ從卒  
多ク首級ヲ得タリ殊ニ坂部三十郎康勝戦功  
ヲ尽ス本多平八郎忠勝石川長門守康通久野  
三郎左衛門尉宗能是ヲ記ノ濱松ニ献ス  
廿一日 太神君及ヒ三郎信康遠及小山ノ城  
ニ御進發アリ  
廿二日 太神君兵ヲ駿及遠月ニ發シテ御服

陣ノ取望宗ノ城ヨリ敵是ヲ遮ル石川数馬正  
敵ヲ追拂テ数十人ヲ討取ル

此日御味方ノ軍勢駿及田中ノ边ニ刈田ス  
命ヲ奉テ松平主殿助家忠士卒ヲ分テ大谷表  
へ相ヒ遣ス平岩七之助親吉ノ輕卒刈田ニ赴  
キ敵ト戦テ疵ヲ被ル家忠從卒ヲシテ是ヲ井  
呂ニテ送テシム

廿六日 家忠カ軍士刈田ノ為田中表ニ發ス  
廿八日 甚雨風烈ス黎明牧野ノ城边ニ討候  
トシ敵七八騎来リ窺ヒ連ニ退クノ間御味方



ノ城兵士出テ戦フニ及ハス

九月大

四日 太神君駿及ヨリ兵ヲ牧野ノ城ニ収メ  
至フ牧野ノ城番仁連木段ニ代テ主殿助家忠  
是ヲ勤ム

六日 太神君牧野ノ城ヨリ濱松ニ歸リ至フ

三日ノ諸将ハ牧野ノ城ニ残り苗テ城壁ヲ修

補ス又牧野ノ城兵等ハ命ニ依テ今城一軍  
ヲ癸ス

十二日 太神君世崎ニ渡御アリ

十四日 太神君濱松ニ皈リ至フ

十九日 武田勝頼兵ヲ卒ノ遠及ニ出張スル

ノ由其因エアリ

廿七日 三郎信康武田カ兵ヲ出ス一ヲ因玉

ヒテ濱松ニ来リ至フ

廿八日 申刻大地震此日武田カ兵山ヲ越エ来

ルノ由牧野ノ城ヨリ濱松ニ註進ス

晦日 敵大井川ヲ越ルノ由牧野ノ城ヨリ濱

松ニ註進ス是ニ依テ三及ノ諸将命ヲ奉テ

各見付ノ馭ニ陣ス



此夜高天神ノ城ヨリ夜半ニ及テ敵ノ兵一人  
竊ニ城ヲ出テ御味方ノ岡ヲ脱レ去ント欲ス  
渥美源五郎勝吉是ヲ擊捕ル其首ニ勝頼カ在  
判ノ<sup>隠</sup>書一通ヲ掛ル勝吉是ヲ取テ太神君  
ニ献ス

十一月大

二日 武田勝頼小山相良邊ニ陣ヲ移スノ由  
註進アルニ依テ太神君及ヒ信康馬伏塚ニ  
御進矣アリ諸卒ハ皆柴原ニ屯ス  
三日 太神君信康御父子師ヲ帥テ横須賀ノ

ノ城近邊搃社山ニ陣シ玉フ其兵八千余騎諸  
卒ハ各山下ニ陣ヲ張ル武田勝頼進テ横須賀  
ノ城ヲ攻ント欲シ兵ヲ卒シテ横須賀ニ赴リ  
トイヘトモ此道 太神君ノ陣シ玉フ山下  
ヲ経ルノ間 太神君ノ武威ニ恐テ猶豫ス小  
笠原五郎及ヒ山縣カ陣代小菅五郎兵衛尉  
二手ノ軍勢海路ヲ経テ横須賀ノ城邊ニ至ル  
横須賀ノ城ハ大須賀五郎左衛門尉康高城主  
トシテ寛助太夫等相加テ是ヲ守ル寛進テ城  
中ヨリ出張シ狂卒ヲ指揮メ戦カハシム小笠



原五八郎小菅五郎兵衛尉経卒ヲ進メテ矢軍  
ス勝頼陣ヲ分ツテ十七列トシテ  
太神君ノ御陣ト入江ヲ阻テ陣ステ取武田カ  
臣強テ諫ルニ依テ勝頼不戦シテ兵ヲ引テ高  
天神ニ退ク大須賀康高カ軍士渥美源五郎鷲  
山傳八郎浅井九左衛門尉柘植又十郎等勝頼  
カ後軍ヲ追ヒ討テ渥美柘植二人首級ヲ得タ  
リ太神君其軍功ヲ褒セテレ渥美源五郎ニ  
革胴服ヲ賜ル  
四日敵ノ作候横須賀ノ城邊ニ来リ窺フ

七日水野彦次郎ヨリ荒木棋津守村重信長  
ニ叛ク事ヲ註進ス  
十二日武田勝頼高天神ノ城ヲ引退ク  
十四日松平主殿助家忠進テ掛川ノ益田ニ  
兵ヲ発スルノ処ニ武田カ先隊大井川ヲ涉リ  
来ルノ由其告アリ  
十七日敵ノ兵三隊島田ニ至テ出張ス  
十九日敵青塚ノ陣ヲ引テ田中ノ城ニ退ク  
晦日武田勝頼去ル廿五日兵ヲ収テ甲列ニ  
取ルノ由註進アルニ依テ太神君濱松ノ城



二 御凱旋アリ此日信康櫛松ヲ出テ置崎ノ城  
ニ飯リ玉フ

天正七年己卯

正月大

一日 諸士濱松ノ城ニ登テ太神君ニ謁

シ新正ノ賀儀ヲ献ス

二日 夜ニ入濱松ノ城ニシテ例ノ如ク御謠

初アリ松平主殿助家忠城ニ登テ着座

又日 太神君三列吉良ニ将シ玉フ

又九月 太神君三列吉田ヨリ濱松ニ還リ玉

フ

二月小

九日 太神君命有テ来ル十八日ヨリ再ヒ濱

松ノ城徑始アリ家忠是ヲ監スヘキノ御旨ヲ

蒙ル

又一月 本多作左衛門尉重次カ揃ヘノ普請

今日ヨリ始ル家忠是ヲ監ス

三月大

六日 牧野ノ城ノ警衛家忠ニ命セラレ家人



ヲ分ケ濱松ニ殘シ苗ヲ普請ノ夏ヲ修セシメ  
家忠濱松ヲ癸シテ掛川ニ着ク

七日 主殿助家忠牧野ノ城ニ至リ西郷孫九  
郎家貞ニ代テ牧野ノ城ヲ守ル

廿五日 勝頼因安ニ陣ス夜ニ入テ 太神君  
信康ト馬伏塚ニ陣シテ是ニ對シ玉フ

廿六日 牧野ノ城番戸田新六郎ニ代テ家忠  
深溝ノ城ニ取ル

廿七日 勝頼因安ヲ出ル

廿九日 勝頼大井川ヲ涉テ退ク故ニ 太神

君濱松ニ御凱旋アリ

四月大

七日 遠刈濱松ノ城ニ於テ 台徳院殿誕生

諸士參賀ス于時 太神君命シテ土井甚三郎

七歳後ニ大炊頭利勝ト号スヲシテ 台徳院殿ニ附ケシメ

玉フ是ヨリ甚三郎月夜急ラス勤仕シテ遂ニ

補佐ノ臣トナル

廿三日 勝頼駿及江尻ニ至テ出張スルニ依

テ来ル廿六日家忠兵ヲ卒シテ濱松ノ城ニ馳

參心ヘキ旨 太神君ノ命ヲ奉テ石川伯耆守



数正家忠ニ告ル

廿五日 主殿助家忠士卒ヲ携へ濱松ニ参着

ス武田カ軍勢高天神国安ニ陣スルノ由其因

エアリ

廿六日 夜ニ入 太神君馬伏塚ニ御発向了

リ三郎信康モ此曉馬伏塚ニ至リ玉ヲ三兵ノ

軍勢等各見付ノ馱ニ陣ス

廿七日 三列ノ軍勢進テ袋井ニ至ル武田カ

兵国安ヲ引退クノ由其告アリ

廿九日 馬伏塚ノ主将 太神君ニ属ス今日

武田カ兵大井川ヲ涉テ退クノ由註進アルニ

依テ 太神君濱松ノ城ニ敢リ玉フ

此月北条氏政カ軍勢梶原ノ某海賊ヲ浮嶋カ

原ノ碓ニ進メテ武田カ兵小濱間宮等ト舩軍

ス勝頼ハ浮嶋カ原ニ陣シテ是ヲ見ル武田カ

軍勢始利ヲ失フトイヘ氏向井伊賀守其子兵

庫助力ヲ尽シテ奮戦フノ間武田カ兵遂ニ利

ヲ得タリ

八月大

三日 太神君三兵置崎ノ城ニ渡御アリ故有



テ三郎信康ト御父子ノ間御不快タルニ依テ  
ナリ信康畠崎ノ城ヲ避ケ同国大濱ノ郷ニ閉  
居シ玉フ

四日 三郎信康大濱ノ郷ヨリ畠崎ノ城ニ来  
テ 太神君ニ謁シ誤ナキノ旨ヲ尽シ陳謝シ  
玉フトイヘ氏 太神君御疑心遂ニ散セサル  
ノ間信康甚雨ヲ凌テ夜中ニ又大濱ノ郷ニ散  
リ玉フ

五日 松平主殿助家忠畠崎ノ城ニ参候ノ  
太神君ニ謁シ奉ル時ニ余有テ曰ク弓鉄炮ノ

徑卒等ヲ引卒シテ速ニ西尾ノ城ニ馳行キ彼  
城ヲ警衛スヘキノ御旨ヲ奉テ家忠則テ畠崎  
ヲ發シテ西尾ノ城ニ赴ク

此日 太神君西尾ノ城ニ渡御アリ

七日 太神君西尾ノ城ヨリ畠崎ノ城ニ散リ

玉フ本城ノ警衛松平上野介柳原小平太康政  
北畠ノ守リハ松平主殿助家忠松平玄蕃頭家  
清鶴殿八郎三郎等 余ヲ奉テ是ヲ勤ム

九日 太神君ノ命ニ依テ三郎信康三列大濱  
ノ城ヨリ遠及堀江ノ城ニ移リ玉フ  
後ニ又ニ  
候ノ城ニ



ル移

十日 太神君鶴殿善六郎ヲ御使トシテ家忠  
ヲ召ス即チ家忠罨崎ノ城ニ参候ス其外三列  
ノ諸將召ニ應シテ群参ス于取 命有テ三郎  
信康ニ密通ノ音回致スヘカラサルノ由諸將  
ヲシテ各起請文ヲ昏シメ玉フ  
十二日 太神君罨崎ノ城ヨリ濱松ノ城ニ還  
御 本多佐左衛門尉重次ヲシテ罨崎ノ城ヲ  
守ラシメ玉フ

廿九日

信康ノ母公

築山ノ御方ト号ス  
関白刑部少輔カ女

害ニ遇フ罨本平右衛門尉是ヲ害ス

九月大

二日 牧野ノ城警衛ノ為家忠濱松ニ参候ス

頂日 太神君聊御不例アリ

四日 相及小田原ノ城主北条氏政勢ヲ関東

ニ揚ルトイヘ氏遙ニ信長ノ威風ヲ関テ請テ

是ニ属シ 太神君ト約ヲ期シ武田勝頼ヲ討

ント相催ス

五日 自北条朝比奈弥太郎ヲ使トシテ

太神君ニ告テ曰ク吾勝頼ヲ豆及ニ相支ンテ



求駿及ニ至テ勝頼カ後ヲ襲ヒ玉ヘ  
是ヲ諾シ玉フ  
太神君

十三日

太神君北条氏政ト御和睦アルニ依

テ来ル十七日其手合トシテ駿及表ニ御動座

可有ノ旨諸将ニ觸催サル

此日大須賀康高々天神ノ城下三峯山ニ伏

兵ヲ設ケ城兵ヲ謀リ出シテ撃ント欲ス敵ノ

間諜是ヲ囮テ城中ニ告ル是ニ依テ城兵遮テ

軍ヲ城外ニ発ス康高地利ニ陣シテ是ヲ待ウ

ケ相戦テ大ニ利ヲ得ル從卒坂部三十郎廣勝

鎧服ニシテ敵ノ魁兵中野郷左衛門尉ヲ討取

ルソノ外康高カ軍士多ク首級ヲ得夕リ敵遂

ニ利ヲ失テ城ニ破シ入ル

十五日三郎信康遠及ニ於テ生害シ玉フ

院サ一方名騰雲隆岩長越遠及ノ住人天野山城守是ヲ

介錯ス山城守カ刀

信康ノ女子二人赦免有テ恙ナシ一人ハ小笠

秀政ニ嫁ス一人ハ本  
多美濃守忠政ニ嫁ス

十七日北条氏政カ手合トシテ御味方ノ軍

勢駿及ニ入シカ為メニ掛川ニ馭ヲ発ス



十八日 太神君駿及ニ入り玉フ諸卒ハ二山ニ陣ス

十九日 太神君松平甚太郎家忠牧野右馬允

康成ニ命シテ望宗ノ城ヲ撃シメ玉フ

此日 太神君田中ノ赤地ニ御陣座

廿五日 勝頼駿府ニ皈ル故ニ太神君兵ヲ

扱テ井呂ニ還リ玉フ大須賀五郎右衛門尉康

高松平周防守康親殿メ敵ヲ拒ク御味方ノ軍

兵馬笥ヲ組テ大井川ヲ渡ス

晦日 太神君牧野ノ城ニ入り玉フ

十月大

一日 太神君牧野ヨリ濱松ノ城ニ皈リ玉フ

九日 太神君今川氏真ヲ濱松ノ城ニ饗シ玉

フ

十九日 太神君濱松ヲ御進發有テ掛川ノ駅

ニ御陣座

廿一日 遠及川上ニシテ大須賀康高伏兵ヲ

設ケ敵ヲ討テ首級ヲ得タリ

廿六日 牧野ノ城番二連木ノ兵ニ代テ今日

家忠濱松ニ皈ル



十一月小

四月 松平主殿助家忠 太神君ノ命ヲ奉テ  
井呂カ崎邊ニ伏兵ヲ設ケ狼煙ヲ以テ約シ期  
シ不意ニ起テ敵ヲ討ヘキノ由兼テ謀ヲ定メ  
ラルノ処ニ下卒等卒余ニ近邊ノ野ニ火ヲ  
放テ煙ヲ揚ルノ間其約相違ス 太神君是ヲ  
怒リ玉ヒテ放火スルノ者ヲ御乳明アルノ処  
ニ鳥居彦右衛門尉元忠カ狂卒ナリ即チ彼者  
ヲ浙罪セラレ

七日 松平主殿助家忠 太神君ノ釣命ヲ奉

テ滝坂表ニ伏兵ヲ設ケ敵爰ニ驅来ルノ間伏  
兵ヲ突シテ急ニ攻メ討ツ敵狼狽シテ敗走ス  
是ヲ追カケ敵ノ五騎ヲ討テ其首ヲ得タリ其  
外小荷駄二十疋追ヒ崩シテ是ヲ奪ヒ取ル  
太神君其功ヲ褒セラレ

十一日 太神君濱松ヲ御出馬掛川ノ馭ニ着  
御諸卒ハ近邊ノ邑里ニ屯ス  
十三日 御味方ノ軍勢横須賀ニ陣ヲ移ス  
十五日 太神君濱松ノ城ニ取リ玉フ主殿助  
家忠城ニ登テ 太神君ニ謁ス



廿日 夜ニ入 本多百助ヲ上使トシテ主殿  
助家忠ニ休暇ヲ賜ル其外諸將各暇ヲ賜ハツ  
テ明曉濱松ヲ発シテ皆居城ニ赴ク  
廿四日 太神君ヨリ蒼鷹ヲ主殿助家忠ニ賜  
ル此日武田カ兵駿及田中ニ出張スルノ由濱  
松ニ註進アリ  
廿五日 敵田中ニ出張スル間家忠兵ヲ卒シ  
テ濱松ニ駈参ルヘキノ旨 命有ルノ由天野  
三郎兵衛尉康景畠崎ノ城ヨリ深溝ノ城ニ告  
ル是ニ依テ家忠深溝ヲ発シテ此日荒井ノ駈

ニ到ル  
廿六日 家忠濱松ニ参着ニ城ニ登テ  
太神君ニ謁ス敵高天神ノ城ニ移ルノ由此日  
濱松ニ註進アリ  
廿七日 家忠濱松ヲ発シ進テ見付ノ駈ニ陣  
ス敵固安ヲ引退クノ由其告アリ是ニ依テ家  
忠兵ヲ卒シテ濱松ニ到ル  
十二月大  
二日 家忠休暇ヲ賜テ深溝ノ城ニ暇ル



天正八年庚辰

正月小

一日 新正ヲ祝ヒ奉ラシカ為メ諸士濱松ノ

城ニ参賀ノ 太神君ニ謁ス

二日 夜ニ入例ノ如ク濱松ノ城ニシテ御謠

始アリ松平主殿助家忠城ニ登着座ス

三日 勝頼高天神ノ城後援トシテ甲斐信濃

ノ一揆ヲ催シ軍ヲ出スノ告アルニ依テ織田

信忠兵ヲ卒シテ尾刈清洲ニ至ル

四日 横須賀ノ城経営トシテ水野監物同姓

惣兵衛尉是ニ赴ク

五日 太神君後四位上ニ叙シ玉ヲ奉

六日 太神君三及西尾ニ将シ玉ヲ奉

七日 太神君是崎ノ城ニ渡御アリ

二月大

十日 太神君駿列表ニ御進弁ノ由酒井忠次

ヨリ家忠ニ告ク

三月小

十三日 来ル十六日高天神取出ノ為メ家忠

士卒ヲ携ヘ濱松ニ参陣スヘキノ旨ニ 鈞命有



ル由酒井忠次吉田ノ城ヨリ深瀧ニ告リ  
十六日家忠濱松ノ城ニ参着シ城ニ登テ  
太神君ニ謁ス

此日太神君濱松ヲ御出馬

此日高天神ノ城兵天王カ馬場ニ出張ス大  
須賀康高中村ノ砦ヨリ兵ヲ発シテ相ヒ戦フ  
康高ノ從士久世三四郎坂部三十郎氏家金次  
郎近藤武助管沼兵藏鷲山傳八郎進テ鎗ヲ合  
世奮ヒ戦フ其<sub>レ</sub>余康高カ從士戦功ノ者多シ本  
多平八郎忠勝軍士丹山忠三郎日置小左衛門

尉先鋒ニ進テ鏖シ合セ戦ス忠勝カ軍勢競  
ヒ掛テ急ニ攻討遂ニ的場曲輪ノ柵ヲ破ル

十八日高天神ノ城ヲ攻メ玉ハシカ為メニ  
砦ヲ大坂ニ築キ玉フ命ヲ奉テ家忠大坂ニ

発ス

廿日大坂ノ砦ヲ修ス

廿五日大坂ノ砦修築イマタ成ラス又

命ノ中村砦ノ要害ヲ築カシメ玉フ

廿八日中村砦ノ要害成ル

廿九日大坂中村兩城ノ間ニ取出ノ要害ヲ



築カシメ玉フ

三月大

九日 太神君濱松ノ城ニ版リ入玉フ

廿四日 武田勝頼師ヲ帥テ豆及表ニ出張ス

晦日 来月五日 太神君駿及表ニ御勤座ノ

由三及ノ諸将ニ觸レ催サル

四月小

十六日 家忠牧野ノ城警備ノ為メ今日濱松

ニ参賀ス

十八日 牧野ノ城番西郷孫九郎家貞ニ代テ

家忠城ヲ守ル

廿七日 三及ノ軍勢葦池田ノ馭ニ陣ス

五月大

一日 太神君掛川ノ馭ニ御陣座

二日 太神君ノ兵牧野ニ陣ス遠及ノ兵八伊

呂ニ屯ス

三日 御味方ノ諸勢田中ノ城ヲ攻ム

此年依田右衛門佐田中ノ城ニ移リ居テ是ヲ

守ル

四日 御味方ノ軍勢遠目ニ至リ八幡山ニ陣



五月程卒シテ田中ノ城近辺ノ麥ヲ悉ク薙  
シメ太神君兵ヲ収テ飯リ玉フ石川伯耆守  
数正殿ス于朧望宗ノ城ヨリ朝比奈駿河守カ  
軍勢等不意ニ出テ

太神君ノ後陣ヲ襲討ント欲ス石川伯耆守数  
正酒井河内守重忠松平周防守康親牧野右馬  
允康成平岩七之助親吉内藤弥次右衛門尉家  
長鈴木喜三郎小原等返シ合テ力戦ス松平左  
近太夫直乘横合ニ駆セテ頻リニ競ヒ戦フ敵

急ニ敗北ス御味方ノ軍勢利ニ乗シテ是ヲ追  
討ニス三浦兵部少補向井伊賀守長谷川左近  
太夫須藤左衛門石原五郎作天野角右衛門尉  
櫻井兵庫助朝比奈市兵衛尉同姓隼人正矢野  
弥三郎庵原傳内等ヲ始八十余人ヲ討テ各其  
首ヲ得タリ其中ニ三浦兵部少補ハ松平周防  
守康親カ臣田作右衛門尉元次是ヲ討取ル  
然ルニ一色ノ某太神君ノ御勅氣ヲ蒙リ周  
防守康親カ許ニ蟄居シテ此陣ニ在リ作右衛  
門元次三浦兵部少補カ首ヲ一色ニ譲リ与ヘ



テ其戦功ヲ以テ一色

太神君ノ御赦免ヲ蒙ラシテ更ニ請フ

太神君元次カ軍功ヲ一色ニ讓ル

有テ着シ玉フ御鎧威ノ片袖ヲ以テ元次ニ賜

ル矢野孫三郎ハ安藤治右衛門尉正次是ヲ討

テ首ヲ得タリ太神君其戦功ヲ褒セラレ永

樂二十貫文ヲ正次ニ賜ル

十七日 牧野ノ城番戸田新六郎ニ代テ家忠

濱松ニ飯ル

六月小

十日 太神君横須賀ニ馬ヲ出シ玉フ家忠鎌

田ニ陣ス

十一日 高天神ニ対シテ砦ヲ鹿ヶ鼻ニ結ハ

シメ玉フ家忠進テ廉カ鼻ニ陣ス

十二日 廉カ鼻ノ砦ノ要害ヲ築ク

十七日 火ヲ高天神ノ外郭ニ放ツ

十八日 狂卒ヲシテ高天神城外ノ稻ヲ刈ラ

シメ 太神君御凱旋アリ

七月小

廿日 太神君掛川ニ御進発アリ三ノ軍勢



八山口ニ屯ス  
廿一日 太神君井呂崎ニ陣シテ稍シ刈ラシ  
メ至フ  
廿二日 御味方ノ諸卒小山ニ進テ相戦ヒ敵  
ヲ少々討捕ル家忠カ後士能ク戦テ疵ヲ被ル  
者二人

廿三日 酒井左衛門尉忠次先日ヨリ田中ノ  
城ヲ圍ム石川伯耆守数正忠次ニ代テ田中ノ  
城邊ニ陣ス是ニ依テ忠次吉田ノ城ニ取ル  
廿四日 小山表刈田ノ拒キトシテ指置ク本

多平八郎忠勝カ後士三騎敵ト戦テ死ス

廿五日 太神君ノ余ヲ奉テ家忠小山表ニ兵

ヲ發ス

廿六日 太神君軍ヲ掛川ニ収メ至フ諸將モ

亦掛川ノ駅ニ取リ集ル

廿七日 太神君濱松ノ城ニ還リ入至フ

八月 大

一日 北条氏政師ヲ帥テ黄瀬川ニ出張シ武

田勝頼ト对阵ス兼テヨリ氏政 太神君ト約

シテ勝頼カ陣ヲ前後ヨリ夾テ討ント謀ル



廿六日 藤北条氏政力使小笠原濱松ニ来テ武  
田勝頼ト對陣ノ夏ヲ 太神君ニ告ル  
廿七日 松平治郎左衛門尉重吉三及野見ニ  
於テ卒去ス三八十

九月 小  
十八日 来ル 廿二月 家忠兵ヲ卒メ濱松ニ參  
陣スヘキノ旨 太神君ノ鈞命ヲ奉ル  
廿日 太神君御出馬延引ノ由濱松ヨリ三及  
ノ諸將ニ觸知ラシメ玉フ  
廿三日 太神君命有テ水野惣兵衛尉忠重ニ

三及 蒨屋ノ城ヲ賜ル 是ヨリ先キ忠重カ兄下  
野守信元蒨屋ノ城主夕  
リ天正三年信長  
ノ岩ニ生害ス  
高力与左衛門尉清長 後ニ河内ニ遠及馬伏塚  
守ト号ス  
ノ城及ヒ鎌田ノ御ヲ賜ル

十月 大  
十二月 太神君師ヲ帥テ濱松ノ城ヲ御進發  
了リ  
十九日 主殿助家忠及ヒ三及ノ諸將大須賀  
ニ陣ス

廿日 太神君ノ命ニ依テ諸將人吏ヲ山ニ登



世手柵木ヲ伐ラシム  
廿二日 御味方ノ兵進テ高天神ノ城際ニ陣  
ス太神君命シテ廉ケ鼻中村小笠原ノ取出  
ニ各軍勢ヲシテ守ラシメ玉ヒ高天神ノ城四  
方ニ壘ヲ深ソ柵ヲ結ハシメ郭外一間ニ軍士  
一人ヲ配テ堅ク城ヲ圍マシメ玉フ  
廿四日 高天神城外柵ヲ結フ普請成ル  
廿八日 太神君高天神ヨリ陣ヲ馬伏塚ニ移  
シ玉フ  
十一月小

十二日 太神君命シテ橋カ谷ノ要害ヲ修セ  
シメ玉フ此日 太神君高天神ノ城多勢ヲシ  
テ堅ク是ヲ圍マシメ玉フノ由信長ニ告ケ玉  
ハシカ爲メ松平主殿助家忠ヲ御使トシテ安  
土ノ城ニ赴カシメ玉フ家忠 命ヲ奉テ濱松  
ヲ発シテ安土ニ至リ信長ニ謁シテ御使ノ御  
旨ヲ述テ濱松ニ皈ル是ニ依テ信長ヨリ高天  
神ノ城ヲ攻ムルノ援兵来ル

十二月大

五日 夜ニ入高天神ノ城外石川伯耆守数正



カ陣営失火ス然リトイエトモ陣中ノ制法堅  
キニ依テ聊モ物念ナラス  
廿日信長ヨリ猪子兵助福富平九衛門尉長  
谷川藤五郎西尾小九衛門尉四人使トメ高天  
神ニ来ル  
廿一日太神君信長ノ四使ト共ニ高天神ノ  
城ヲ巡見シ玉フ  
廿二日太神君信長ノ四使ヲ伴テ濱松ニ皈  
リ玉テ是ヲ饗メ後四使ヲ皈サシメ玉フ

天正九年辛巳

正月小

一日諸士濱松ニ参候メ城ニ登テ太神君  
ニ謁シ新正ノ賀儀ヲ献ス  
二日夜ニ入濱松ノ城ニ於テ例ノ如ク御謠  
初アリ諸士参賀ス

三月小

廿二日去年十月ヨリ此春ニ至テ遠参両国  
ノ多勢高天神ノ城ヲ固ム是ニ依テ城兵頻リ



ニ援兵ヲ勝頼ニ請フトイハレ勝頼果サス上  
及ニ軍ヲ出ス高天神ノ城兵等是ヲ圍テ氣屈  
シ力尽テ必死ニ迫ル故ニ今夜戌ノ刻ニ及テ  
城門ヲ開テ一同ニ進テ出テ寄手ノ圍ヲ破テ  
脱レ去ラント欲シテ石川長門守康通カ守リ  
固ム所ノ龍ヶ谷ニ切テ出ル寄手ノ軍勢位ヲ  
乱サス陣ヲ堅メ是ヲ攻討ツ城兵圍ヲ破ル  
ヲ得ス寄手ノ多勢奮討ノ間城兵悉ク奄ヶ谷  
ニ敗レ入テ落重テ死亡スルモノ数百人残兵  
狼圍ヲ破リテ遁レ去ラント欲ス本多平八郎

忠勝鳥居彦右衛門尉元忠是ヲ攻討テ取金曲  
輪ニ追ヒ入ル水野惣兵衛尉忠重其子水野藤  
十郎勝成父子カ<sup>子</sup>曲輪ヨリ二ノ丸ニ進テ攻  
入ル水野カ從卒清水治右衛門尉山本市作先  
登メ死ス的場曲輪ノ敵夥敷拒ク故ニ寄手聊  
カ猶豫ス于時戸田孫六郎康長<sup>于取十六歳後  
ニ丹波守ト号ス</sup>  
此曲輪ヲ攻ニ<sup>一</sup>ヲ請フ太神君是ヲ許シ玉  
フ間康長進テ攻討テ城中ニ火ヲ放ツ戸田三  
郎右衛門忠次同ク進テ奮ヒ戦ヒ遂ニ的場曲  
輪ヲ攻メ破ル于取忠次カ從士石原孫次郎大



屋喜助

植男

十兵衛尉芳賀清助等先登之軍

功ヲ

及ヒ五十貫ノ地及ヒ五十貫ノ地松平主殿助家忠勇ニ戦テ多

ク首級

ヲ得タリ家忠力従士板倉木工右衛門

尉忠重

先登ニ進ニ敵ノ勇兵ト向ヒ戦テ敵堀

ノ中又

敗シ入ル忠重遂テ共ニ堀ノ中ニ入テ

遂ニ是

ヲ討ツ於爰家忠力従卒板倉長藏定重

ヲ始テ

精兵五騎戦死ス寄手ノ多勢城ニ攻メ

入ルノ

間拒夏ヲ得ス城兵悉ク戦ヒ死シテ城

遂ニ

陥ル城将置部丹波守ハ大久保七郎右衛門

尉忠世

力従卒本多主水正討テ其首ヲ得タリ

城兵

横田甚五郎及ヒ相木ノ某ハ大須賀五郎

左衛門

尉康高力陣ト大久保七郎右衛門尉忠

世力

陣ノ間ナル柵ヲ破テ遁レ去ル高天神ノ

城イ

マタ陥ラサル以前ニ内藤三郎左衛門信

成管

沼次郎右衛門尉ヲ召テ太神君命有テ

曰ク

汝等二人国安ニ陣シテ居ルヘシ高天神

ノ城

陥ラハ討洩サルノ城兵等必ス国安ニ

敗シ

来ラニ是ヲ得テ討苗ムヘキノ御旨ヲ蒙

テ内藤

管沼国安ニ往テ陣ヲ張ル太神君ノ



余一帯ハス敵国安ニ敗シ来ル内藤菅沼是ヲ  
悉ク討捕ル  
今日高天神ノ城ニシテ御味方ノ軍勢討捕ル  
処ノ首凡七百三十余級信長ノ援助ノ部將佐  
々内藏助成政野々村三十郎是ヲ録シテ安土  
ニ飯ル  
頭百三十八 鈴木喜三郎  
同十五 水野国松  
同十八 鈴木喜<sup>越</sup>中守

同十八 本多作左衛門尉  
同七ツ 内藤三郎左衛門尉  
同六ツ 菅沼二郎右衛門  
同五ツ 三宅惣右衛門尉  
同七ツ 本多 彦四郎  
同五ツ 戸田三郎右衛門  
同五ツ 本田 庄左衛門  
同四十二 酒井左衛門尉  
同十六 石川長門守  
同百七十七 大須賀五郎左衛門尉



同四十

石川伯耆守

同十

松平上野介

同二十二

本多平八郎

同六ツ

上村庄右衛門

同六十四

大久保七郎右衛門

同四十一

榑原小平太

同十九

鳥居彦右衛門

同六ツ

松平玄蕃

同三ツ

久野三郎左衛門

同一ツ

牧野管八郎

此内駿河先方精兵ノ首級所謂  
同二ツ 近藤平右衛門  
同三ツ 鳥居俊左衛門  
同四ツ 岩瀬清助

是部丹波守三浦右近  
朝比奈孫六郎近藤与兵衛  
太夫是部带刀松尾若狭守  
丞六笠彦三郎神應但馬守  
八郎兵衛三浦雅乐助

栗田力從兵信列ノ士



栗田刑部丞栗田彦兵衛及ヒ才二人勝股主税  
助榊木庄左衛門山上備後守和根川雅乐助  
大戸力從士<sup>兵</sup>  
大戸丹波守浦野右衛門江戸右馬丞九郎  
横田力從兵衛  
土橋五郎兵衛福島木目助<sup>五</sup>  
与田能登守力從兵衛  
与田美作守与田木工左衛門与田武兵衛大子  
川原三藏江戸加助  
都合首数七百三十余

廿三日 昨夜高天神ノ城陥ルノ取城中ニ籠  
ル処ノ兵数百人討捕ラル、トイヘ氏今日實  
見ニ及テ城将等ノ首不足ナリ其外撃渡サレ  
ル城兵等近辺ノ山林ニ隠レ居ルノ由其因上  
アルニ依テ諸将ニ命シテ是ヲ求メシメ玉フ  
下卒等ハ数輩尋出シテ是ヲ討取ルトイヘ氏  
吏士ノ首ハ得ス  
廿四日 太神君高天神ヨリ濱松ノ城ニ御凱  
旋アリ去年ヨリ高天神ノ城圍ム諸将等ヲ召  
テ軍功ヲ褒セラレ各休暇ヲ賜テ居城ニ暇ル



六月大

廿八日 太神君濱松ノ城御進發有テ見付ノ  
馭ニ陣ニ玉ヲ

七月小

一日 松平主殿助家忠 余ヲ奉テ相良ニ兵  
ヲ發ス

三日 相良ノ取出ヲ倭世シメ玉フ

此月ヨリ武田勝頼甲列韭崎ニ城ヲ築テ新府  
中卜号ス

九月大

廿五日 濱松ノ城經營ニ依テ家忠ヲ召ス家  
忠濱松ニ參候シテ城ニ登テ 太神君ニ謁ス  
十月大

十四日 濱松ノ經營成ル

十二月小

十五日 太神君馬伏塚ニ將ニ玉フ

十七日 牧野ノ城ノ警備西郷孫九郎家貞ニ  
代テ松平主殿助家忠是ヲ勤ム

十八日 信長兵ヲ駿甲ニ出サニカ為メ西尾

小丸衛門尉ヲ遣ニ糧ヲ東条ニ入ル



此月奥平九八郎

于時十五才奥平信昌カ嫡子

太神君ノ御

前ニメ元服ス御諱ノ字ヲ拜受レテ家昌ト号

ス御太刀家守ヲ家昌ニ賜ル

此年太神君ノ御妹ヲ以テ松平玄蕃頭家清

ニ嫁セシメ玉フ

今年大久保五郎左衛門尉忠俊卒去

三十八才

此年渡边弥之助助光ヲシテ足狂頭ニ十サシ

メ玉フ

家忠日記追加卷之六 終

家忠日記追加卷之七

自天正十年正月  
至同年八月

天正十年壬午

正月大

一月 群臣遠州濱松ノ城ニ登テ

太神君ニ謁ニ歳首ノ賀儀ヲ献ス

二日 夜ニ入り濱松ノ城ニ於テ例ノ如ク御

謹初アリ諸士参賀ス

七日 風烈メ霰降ル其大キ十儿夏棗ノ如ク

松平主殿助家忠牧野ノ城ノ警衛仁連木ノ兵

ニ代テ牧野ヲ祭メ此日池田ノ驛ニ至ル



八日 松平主殿助家忠濱松ニ参候ノ城ニ登  
テ 大神君ニ謁ニ新春ヲ祝ニ奉ル于時休暇  
ヲ賜リ即日家忠濱松ヲ登ノ此日気賀ニ旅宿  
ス  
十四日 大神君三州置崎ノ城ニ渡御アリ三  
州在四ノ諸士置崎ノ城ニ群参ノ  
大神君ニ謁ス

二月小

二月 大神君鷹ノ捕ル所ノ鷹ヲ以テ松平主  
殿助家忠ニ賜ル

九日 信州ノ木曾左馬頭義昌織田信長ノ旗  
下ニ属ス是ニ依テ信長信忠父子甲信兩國ニ  
近日祭向ノ武田勝頼ヲ討ニト歎ス 大神君  
モ亦彼国ニ御進登アルヘニ遠三兩國ノ諸將  
等兼テ軍用ヲ調ヘ御出馬ヲ相待ヘキノ旨ヲ  
觸催サル既ニ信長信忠父子兵ヲ甲信ニ登ニ  
ト歎メ其軍列ヲ定ム駿河口ハ 大神君其兵  
三万五千余騎関東口ハ 北条氏政三万余騎飛  
彈口ハ 金左五郎八長近三千余騎木曾口ハ 織  
田信忠五万余騎伊奈口ハ 織田信長七万余騎



伊奈口ハ東山道第一ノ嶮難ノ地ニメ容易ク  
攻入難キ処ニ下條伊豆守信氏力旗下下條九  
兵衛尉志ヲ信長ニ通シ濃州岩村ノ城主河尻  
肥後守カ軍勢ヲ国中ニヒキ入レ伊奈ノ城ヲ  
避ケ渡スノ間信長カ兵力ヲ勞セスメ信州ニ  
攻入ル  
十二日織田信忠五万餘騎ノ軍勢ヲ卒ノ岐  
阜ノ城ヲ登メ上田ニ到ル  
十三日信忠高野ニ至ル  
十四日信忠其夜軍ヲ岩村ニ陣ス滝川一益

毛利河内守此所ヨリ信忠ニ先立テ伊奈口ニ  
赴ク  
然ル処ニ武田カ諸兵或ハ降ヲ乞ヒ或ハ敗走  
ニ到ヘ本曾義昌内應ス故ニ拒ム敵ナシ  
十六日武田カ兵小山ノ城ヲ弃テ甲州ニ走  
ルノ由大神君ニ注進ス  
十八日大神君師ヲ帥テ濱松ノ城ヲ御進登  
有テ掛川ノ驛ニ著御家忠山口ニ陣ス  
十九日大神君牧野ノ城ニ御陣座諸兵金谷  
ニ屯ス



廿日 御味方ノ諸將兵ヲ田中ノ城ニ登ス守  
城依田右衛門尉信蕃和ヲ請テ甲州ニ走ル  
廿一日 御味方ノ軍勢遠目坂ヲ越テ進テ望  
宗ニ陣ヲ張ル此日 大神君駿府ニ御陣座ヲ  
リ  
廿三日 大神君諸卒ニ 命メ望宗ノ城ヲ攻  
撃シメ玉フ  
廿七日 望宗ノ城主朝比奈駿河守 命メ  
大神君降ニト請フ 大神君是ヲ許シ玉フニ  
依テ朝比奈城ヲ避ケ渡メ久野ニ退ク命メ  
釣命

二 依テ松平王殿众家忠是ヲ送ル

三月大

一日 駿河江尻ノ城ヲ守ル穴山梅雪 信名陸奥守

大神君ニ降テ江尻ノ城ヲ避ケ渡ス是ヨリ

先キ 大神君長坂血鎧九郎ヲメ江尻ノ城ニ

赴カシメ梅雪ヲ幕下ニ招カル長坂江尻ノ城

ニ往テ滞留スル迄七日言ヲ答メ諫ルニ依テ

梅雪遂ニ御味方ニ属セシト約ス長坂江尻ノ

城ヨリ取テ此旨ヲ達ス 大神君長坂カ独城

ニ入テ遂ニ其意ヲ成ラシムル勇謀ヲ美セラ



ル遠州曾我庄内篠塚村石野村料毛村ヲ長坂  
ニ賜ル其後梅雪大神君ニ供奉ノ上洛スル  
鹿毛ト号ス穴山梅雪ハ信玄カ婿ヲリ又勝頼  
カ娘ヲ以テ梅雪カ子勝千代ニ嫁セリト約  
ス勝頼ヲ諫テ梅雪武田左馬助信豊カ賂ヲ受テ  
カ子ニ嫁セシメ梅雪是ヲ怒テ娘ヲ改テ信豊  
勝頼ニ背テ遂ニ大神君ニ屬ス田中望宗ノ兩  
城及ヒ鞠子ノ城各甲州ノ兵是ヲ守ルトイヘ  
トモ梅雪志ヲ太神君ニ通シ是ヲ謀ルノ故  
ニ皆降テ城ヲ開渡ス  
二日大神君牧野右馬允康成ニ余ノ駿州  
兵國寺ヲ守ラシメ玉ヲ康成牧野ノ城ヨリ與

國寺ヲ守ラシメ玉ヲ康成牧野ノ城ヨリ與國  
寺ニ移ル  
勝頼父子及ヒ信豊諏訪ノ上原ニ屯ス穴山カ  
叛逆ノ告ヲ聞テ諏訪ヲ去テ佳ニ免レ新府中  
ニ入ル是ヨリメ甲信ノ兵弥信忠ニ降ル者多  
シ  
高遠ノ城仁科五郎信盛カ弟是ヲ守テ拒キ戰  
テ城兵悉戰死ス既ニ勝頼新府ヲ避テ小山田  
兵衛佐カ領所ニ至シト欲ス  
三日勝頼妻兒ヲ携ヘ從士五百余人ヲ卒メ新



府ヲ出テ鶴瀨ニ着ク小山田兵衛佐志ヲ変メ  
軍士ヲメ篠子ヲ守ラシメ且ツ新関ヲ設ケテ  
勝頼ヲ拒ク勝頼為方ナリ田野ニ赴リ此ニ至  
テ從者皆離散ス

信忠陣ヲ上ノ諏訪ニ移ス

四日 穴山 太神君ニ謁ス太刀及鷹一聯馬  
一疋ヲ献ス此日信長七万餘騎ヲ卒メ安土ヲ  
祭メ栢原ニ至ル

五日 酒井左衛門尉忠次本多平八郎忠勝大  
須賀五郎左衛門尉康高陳ヲ神原ニ移ス

六日 信長進テ呂久ノ渡リニ至ル此ニ信忠  
ノ使仁科五郎信盛カ首ヲ持来ル信長大ニ悦  
テ則信盛カ首ヲ岐阜ノ長良河原ニ梟ス其日  
ハ甚雨ニ依テ岐阜ニ滞留ス

七日 大神君ノ御軍勢駿河與津ニ陣ス此日  
信忠上ノ諏訪ヨリ甲州ノ府一條カ館ニ至テ  
陣ニ退キ後レタル武田カ從卒等ヲ尋探テ悉  
ク誅ス

八日 大神君與津ニ御陳座諸卒万座ニ屯ス  
此日信長岐阜ヲ祭ス



九日 大神君万座ニ陳シ玉ヲ諸卒進テ身延  
ニ陳ス穴山梅雪爰ニ出向テ甲州表ノ案内者  
トメ 大神君ノ先驅ニ加テ文殊堂市川口ヨ  
リ攻入ル甲州ヨリ注進メ云ク勝頼戦カハス  
メ退去スト云

十一日 田野ノ奥天目山ノ郷民等蜂起メ勝  
頼ヲ攻ム信忠ノ臣滝川元近將監一益川尻肥  
後守五千餘騎ヲ卒メ勝頼カ居所ヲ探求テ田  
野ニ攻入テ是ヲ圍ム勝頼父子及土屋惣蔵ヲ  
始僅ニ四十餘人は是ヲ拒テ苦戦スルトイヘト

モ多勢競ニ攻撃ノ間勝頼于時三夫婦信勝于時

十六歳 屢戦テ遂ニ死ス土屋惣蔵奮戦テ死ス其

餘阿部加賀守温井常陸介金丸助六秋山民部

少輔小宮山内膳正小原丹波守同姓下総守岩

下惣六郎原下総守多田久蔵僧麟兵等皆死ス

滝川一益勝頼父子ノ首ヲ持シメ信忠ノ陣ニ

遣ス信忠大ニ悦テ脇指光良馬一疋ニ感狀

ヲ副テ滝川ニ賜ル

此日 大神君師ヲ帥テ甲州ノ府ニ着御信忠

ニ御對顔ソレヨリ信州諏訪ニ御祭向アリ



十三日 大神君諏訪ヨリ御取路ニ赴セ玉フ  
此日信長信州祢羽根ニ至ル于時信忠ノ使者  
関加平次兼原助六郎勝頼父子カ首ヲ持参ス  
信長是ヲ見テ謂テ云ク信忠軍ヲ出メ總ニ三  
十日甲信兩國ヲ平ケ刺勝頼父子カ首ヲ得ル  
莫奇ナリト謂ツヘシト大ニ悦テ刀荒波ト良  
馬板屋鹿毛暑衣百ヲ信忠ニ送り黄金百兩馬  
一足ヲ其使関兼原ニ賜リ福富平九衛門尉ヲ  
ニテ兩使ニ相副遣ハシメ大敵速成メ退治感  
悦ノ旨其意ヲ述ラル

十四日 信長陳ヲ信州飯田ニ移シ勝頼父子  
カ首ヲ此所ニ梟ス其後勝頼カ首ヲ京都ニ遣  
此日 大神君ノ御家人松平左近太夫直乗卒  
去ス三十七歳嫡子源次郎于時八歳後ニ家督  
ヲ統テ三州大給ヲ領ス  
十九日 信長上ノ諏訪法銀寺ニ陳ス其兵十  
万餘騎信長甲信兩國ノ群士ヲ謀テ我カ旗下  
ニ属スル者ハ本領安堵スヘキノ由ヲ觸シム  
武田カ家人等是ヲ信ノ降ヲ請テ来リ集ル者  
多シ於爰信長武田カ家人ヲ悉ク殺戮ス其中



ニ一條信龍ハ市川ニシテ大神君是ヲ誅シ玉  
フ  
依田右衛門佐ハ駿河田中ノ城ニ在テ是ヲ堅  
ク拒キ守ル甲刃ノ兵守ル処ノ駿河ノ数城皆  
大神君ニ降テ退キ去ル依田右衛門佐田中  
ニ殘テ大敵ヲ拒クヘキニ非ス是ニ依テ去ル  
凡日田中ノ城ヲ大久保七郎右衛門忠世ニ避  
渡メ退ク于時大神君山本帶刀成氏ヲノ旗  
下ニ屬メ忠ヲ励スヘキノ旨余有テ召スト  
イヘトモ依田其余ニ從カハス勝頼カ存亡

一ニ夕且其實各ヲ知ラスト深テ忠義ヲ守ニ信州ニ走リ既ニテ勝頼又テ滅ビ

後信長彼殘黨ヲ悉尋探テ是ヲ殺ス依田ヲ  
捕テ誅スヘキノ由其聞ヘアリ于時  
大神君ヨリ御使ヲ市川ノ御陣ニ招カシメ  
玉フ依田召ニ忘テ竊ニ市川ニ參候メ大神  
君ニ謁シ鈎命ニ依テ山路ヲ凌テ僅ニ主從  
六人遠茹ニ股ノ奥小川村ニ脱レ兩居ス  
亦一日北條氏政力使者上ノ諏訪ニ來テ速  
成ノ平均ヲ祝シ太刀一腰馬一疋黄金千兩江  
州酒十樽白鳥十箇漆桶二十荷ヲ信長ニ獻ス  
亦三日信長瀨国ヲ諸將ニ割与テ駿河国ヲ



以テ 大神君ニ進セラル河尻肥後守ニ甲州  
并信州諏訪郡森庄藏長一ニ信州ノ内更級高  
井水内垣科四郎毛利河内守ニ信州伊奈郡赤  
蘭丸ニ濃高岩村ノ城采地五万石ヲ授ク又可  
成力忠死兄長一カ戦功ヲ履シ且ツ蘭丸カ才  
アルニ依テナリ此山梅堂ニ甲州西郡ヲ加賜  
フ下山八元道家彦八郎ニ信州小諸滝川丸近  
将監一益ニ上州信州佐久小縣ニ郡ヲ賜リ信  
長謂テ云ク汝ヲ以テ關東ノ管領職トス若シ  
思慮ニ及ハサル莫アラハ 大神君ノ旨ヲ請

テ是ヲ沙汰スヘシ一益拜謝ス信長又脇指并  
良馬ヲ一益ニ賜リ關東ノ制法十五ヶ條ヲ定  
テ一益ニ授テ上野厩橋ノ城ニ居ラシム

四月小

二日 信長信忠ヲメ法親寺ニ留メシメ富士  
一見トメ法親寺ヲ出テ大カ原ニ至ル  
三日 信長新府古府ヲ経歴メ駿河ニ赴キ富  
士ヲ見シト欲ス  
於爰甲冑惠林寺ニ佐々木次郎ヲ隠ス罪ニ依  
テ信忠諸兵ヲ差遣シ廊門堂舎ニ火ヲ放テ僧



徒等ヲ焚殺ス

十一日 信長本巢ニ至ル此日森庄藏長一川

中嶋ヲ築リノ処ニ一揆蜂起ストイヘ正長一

悉賊徒ヲ撃捕ル

十二日 信長本巢ヲ登ノ富士山ヲ周覽シ其

夜大宮ニ旅宿ス大神君此處ニ茶店ヲ構ヘ

信長ヲ饗シ玉ヲ于時信長刀一文脇指吉光良

馬二疋ヲ大神君ニ進ヒラル大神君御領

国ノ内駿遠三ノ間断橋ヲ修シ路次ヲ警固セ

シメ信長ヲ饗シ玉ヲ

十三日 信長大宮ヲ出テ江尻ノ驛ニ至ル

十四日 信長駿府ニ至ル大神君假屋ヲ構

テ一献ヲ進メ玉ヲ信長田中ニ著ク

十五日 信長掛川ニ至ル

十六日 信長天竜川ニ至ル大神君ヨリ小

栗仁右衛門尉浅井六之助ヲ奉行トシ船橋ヲ

設ケ旅館ヲ修メ是ヲ待ツ信長脱テ小栗浅井

兩軍ニ黄金ヲ与ル此日信長濱松ノ城ニ著ク

酒井左衛門尉忠次大神君ノ命ヲ奉テ是ヲ

饗應ス信長米二万石ヲ以テ大神君ノ老臣



等ニ与ル信長忠次ニ謂テ云ク大神君ノ領  
駿河蒲原ヨリ爰ニ至テ山路船橋等ノ警衛何  
ヲ以テ是ヲ謝セニヤ我今天下ニ威ヲ震ラヌ  
累年大神君ノ武威ニ依ルト謂テ夜深更ニ  
及ラニテ忠次卜閑話ス  
十八日 信長吉田ノ城ニ着ク酒井忠次是ヲ  
饗ス于時信長太刀光黄金二百兩ヲ忠次ニ授  
ク一箱ニ出サシメ奉ル  
廿一日 信長安土ノ城ニ皈ル  
十三日 五月小

九日 大神君今度駿河ヲ得玉フ謝礼トメ濱  
松ノ城ヲ御首途有テ安土ニ赴セ玉フ穴山梅  
雪大神君ニ從ヒ奉ル  
十五日 大神君三品出崎ノ城ニ着御松平主  
殿助家忠出崎ニ参ノ城ニ登テ大神君ニ  
謁ス  
十三日 大神君出崎ノ城出御安土ニ赴セ玉  
フ其道信長ノ領内高野篠藏長坂助市郎山口  
太郎九衛門尉ヲノ路次ヲ警衛ニ新橋ヲ修シ  
御旅館ヲ設テテ大神君ヲ請待ニ奉ル



十五日 大神君安土ニ著御大室坊ニ御寄宿  
アリ信長明智日向守光秀ヲノ饗應ニ奉ル光  
秀俄ニ假屋ヲ構ヘ金銀ヲ以テ饗膳ヲ飾リ美  
ヲ尽ス于時羽柴秀吉備中ノ国ニ在テ毛利輝  
元ト對陣ニ援兵ヲ信長ニ乞フ信長池田信輝  
父子明智光秀長里与市郎忠與高山右近中川  
瀨兵衛尉塩川吉大夫等ヲノ備中国ニ赴カレ  
メ秀吉ヲ救ント欲メ別人ヲノ光秀ニ代テ  
大神君ヲ饗ス  
十九日 信長安土惣見寺ニ於テ 大神君ヲ

遊慰ノ舞大夫幸若猿樂太夫核若ヲ召テ其與  
ヲ尽カル 大神君ノ家臣等棧敷ニ座ス又穴  
山梅雪モ伺候ス  
元日 信長高雲寺ノ館ニメ 大神君ヲ饗ス  
信長自ラ配膳ニ梅雪及 大神君ノ家臣數輩  
ニ至ルテ信長手ツカラ者款ヲ賜ル信長  
大神君ノ御手ヲ挽テ殿守ニ登リ是ヲ歴覽ノ  
本座ニ飯リ玉フ夜ニ入テ退出ニ玉フ  
元一日 大神君安土ヲ出御洛ニ赴セ玉信長  
長谷川竹ヲ以テ案内者トノ相副テル此次テ



二泉州堺ヲ御周覽アルヘキノ首也  
北六日 明智日向守光秀坂本ヲ登ノ丹波ニ  
赴キ龜山ノ城ニ入ル  
北七日 光秀愛宕山ニ登テ西ノ坊ニ一宿ス  
北八日 光秀祈願ノ麦アルニ依テ紹巴ヲ招  
ケル百韻ノ連歌ヲ與行ノ光秀龜山ニ皈ル  
北九日 信長安土ノ城警衛トメ津田源十郎  
加藤兵庫頭野々村又左衛門尉遠山新九郎蒲  
生右兵衛太夫雲林院出羽守等ヲ留置キ近習  
僅ニ百五六十騎ヲ卒メ入洛ニ假リニ本能寺

ニ居ス信忠ハ妙覺寺ニ寄宿アリ

六月大

一日 明智日向守光秀龜山ノ城ニ在テ明智  
九馬助齋藤内藏助滝尾藤兵衛尉等ニ密ニ隱  
謀ノ旨ヲ語ル各意ニ應ヒストイヘトモ莫急  
ニメ必企既ニ決ス此上ハ諫ルニ及ハスト謂  
テ皆同意ス光秀悦テ龜山ヲ登ス  
二日 黎明明智光秀兵ヲ卒メ洛ニ入り本能  
寺ヲ圍ニ攻撃ツ信長躬ヲ弓ヲ採テ是ヲ拒キ  
戦フトイヘトモ逆徒ノ猛勢夥シク競ヒ攻ル

發斷ノ軍士方天ニ馳カリモテ

射ル本意



ノ間拒クコトアタハス信長疵ヲ被テ自殺ス  
干時四十九歳法 徒卒皆戦死ノ寺中ニ火ヲ放  
名惣見院泰巖 ツ信忠二條ノ妙覺寺ニ在テ光秀カ及逆ノ告  
ヲ聞テ本能寺ニ馳ス逆徒等道ヲ遮リ塞テ通  
路自由ナラス于時村井春長軒父子三人馳來  
テ本能寺ノ落去ヲ告ル信忠ソレヨリ二條ノ  
新御所陽光院ニ入テ親王及ヒ若宮ヲ禁中  
ニ移シ奉ル于ノ刻ニ至テ光秀一万餘騎ヲ卒  
ノ二條ノ新御所ヲ圍ム信忠ノ徒卒勇ヲ震ヒ  
街ヲ尽メ拒キ戦フ光秀指揮ノ御所ノ隣ナリ

屋ノ上ニ軍士ヲ登セ矢ヲ發シ火炮ヲ放ツノ  
間是ヲ拒ク莫ク得ス信忠遂ニ自殺干時二十  
七歳法  
大雲院 徒士百五十余人皆死ス  
大神君ハ泉州ノ堺ニ御旅館アリ明智光秀カ  
及逆ニ依テ信長信忠伏誅ノ由注進アルニ依  
テ大神君則時ニ京都ニ兵ヲ發メ光秀ヲ御  
退治有ヘキノ由也御味方軍微ニメ危キノ由  
老臣等強テ諫メ奉ルニ依テ宇治川ヲ超テ伊  
賀伊勢ノ山路ヲ經御畝国有ヘキノ処ニ宇治  
川ノ淺深ヲ知ス案内者ヲ尋求ラル于時酒井



左衛門尉忠次進テ云ク何ソ他ヲ求ニヤ我郷  
導トナラント謂テ向辺ヲ走り廻テ小船一艘  
ヲ求得テ献ス 大神君是ニ乘リ玉テ川ヲ渡  
リテ向ノ岸ニ至リ玉フ酒井忠次先キニ進テ  
馬ヲ川ニ乘入ル 忠次カ乗込ノ 供奉ノ士忠次  
ニ次テ川ヲ涉ス勢田ノ城主山世美作守其弟  
对馬守勢田ノ城ヨリ馳来テ山路ヲ御案内仕  
ヘキノ旨ヲ達ス  
大神君則山世兄弟ヲ郷導トシ玉ヒ勢田ヨリ  
神樂ニ至テ供奉スルノ処ニ近郷ノ一揆起テ

御先途ヲ指塞ソテ數度ニ及フトイヘトモ山  
世兄弟是ヲ追拂テヲトキ峠ニテ送リ奉テ是  
ヨリ暇ヲ告テ皈ルニ時 余有テ曰山路難儀  
ニ及フノ処ニ汝等兄弟カ忠功ニ依テ恙ナキ  
バ旨ヲ褒セラル 大神君勢州白子ヨリ御出  
船 角屋七郎 有テ御皈國ニ赴セ玉フ  
此山梅塞 大神君ニ供奉ノ泉州堺ニ在リ信  
長生害ノ後 大神君伊賀路ヲ相伴ルヘキノ  
旨 余有リトイヘトモ信茹ノ順路ニ非スト  
謂テ從カハスニテ山城ノ宇治田原ニ至テ遂



二 郷民ニ殺サル  
四日 大神君大濱ニ御着岸有テ永丹右近大  
夫力亭ニ渡御アリ松平主殿介家忠其餘三匹  
ノ諸士大濱ニ参候ノ大神君ニ謁ニ御飯  
国ヲ質ニ奉ル  
五日 大濱ノ郷ヨリ罌崎ノ城ニ渡御アリ三  
州ノ諸士群参テ伊勢尾張兩國ノ士大神君ニ  
志ヲ通スルノ輩各使テ罌崎ノ城ニ指越テ  
大神君ノ旗下ニ属セテテ請フ  
六日 大神君置部次郎右忠少尉正綱ニ御書

ヲ賜ル  
此時、山間下ニおろり城ノ志ヲ通スルノ輩  
テ、大神君ノ御下ニ申候ハテテ

六月六日 家康

器次

七日 大神君信長ノ生害ヲ川尻肥後守ニ告  
ケ知セ玉ハニ力為ニ本多百助ヲノ甲筋ニ赴  
カシメ玉フ

八日 大神君近日京都ニ御進登アリ三州ノ  
諸士軍用ヲ調ヘ御出馬ヲ相待ヘキノ旨ヲ觸



催サル

十日 明後十二日 大神君明智光秀御退治  
トノ洛ニ御進倉有ヘキノ旨ヲ諸將ニ命セ  
ラル

十二日 大神君今日ノ御出馬故有テ十四日  
迄御延打アリ

十四日 大神君畠崎ノ城御進倉有リテ京都  
ニ赴セ玉フ松平主殿介家忠進テ鳴海ニ陣ス  
明智光秀信長父子ヲ弑テ後威ヲ洛中ニ震セ  
所司代ヲ置テ洛中ノ地子錢ヲ許シ祠堂銀ヲ

五山及ヒ大徳妙心兩寺ニ寄進ス光秀京都ヲ  
祭ニ安土ニ赴テ勢田ノ城主山田義作守景隆  
其弟對馬守陣ヲ張テ勢田ノ通路ヲ指塞ノ間  
光秀使ヲ山田カ詩ニ遣シ汝等兄弟光秀ニ屬  
シテ忠義ヲ尽カハ厚ク是ヲ賞スヘシ此旨同  
意ヌルニ放テハ妻子ヲ質ニ渡スヘキノ旨ヲ  
告ル山田兄弟元來義士タルニ依テ信長ノ厚  
恩ヲ思テ光秀ニ従カハス光秀カ使ヲ殺メ勢  
田ノ橋ヲ焚キ洛ニ陣ヲ整ヘ光秀ヲ待ツ光秀  
山田兄弟カ武勇ニ思レテ勢田ヲ退キ坂本ノ



城ニ入ル明智孫平次苗テ船ニ乗シテ湖水ヲ  
渡リ安土ノ城ニ往カント欲ス山置美作守景  
隆其弟対馬守兵ヲ勢田ノ城ヨリ谷ノ湖水ニ  
戦テ大ニ勝ツ孫平次利ヲ失テヒキ退ク山置  
兄弟微勢ニシテ勢田ノ城ニ在テ大敵ヲ拒キ難  
キニ依テ遂ニ勢田ノ城ヲ避テ安宮ニ因テ山  
中ニ屯ス

明智光秀一旦坂本ノ城ニ退クトイヘトモ山  
置景隆勢田ヲ去ルニ依テ光秀松本辺ノ人夫  
ニ課テ焚落シタル橋ヲ補続シテ勢田ヲ経テ

光秀遂ニ安土ノ城ニ入リテ金銀財宝ヲ殿主  
ヨリ出シ從卒等ニ割与ヘ制法ヲ定テ明智丸  
馬助ヲメ安土ノ城ヲ守ラシム荒木山城守ヲ  
ノ佐和山ノ城ヲ守ラシメ光秀兵ヲ卒メ洞カ  
峠ニ屯ス信長生害ノ時羽柴秀吉ハ備中ノ国  
ニ在テ毛利輝元ト対陣ス于時六月三日ノ夜  
ニ入り子ノ刻ニ及テ長谷川宗仁カ使者却ヨ  
リ馳来テ告ケ云ク昨二日ノ朝信長又子明智  
日向守光秀カ為ニ弑セラル秀吉聞テ大ニ驚  
ク然レトモ敢テ情ヲ動カラス秀吉毛利ト和



ヲ調へ同六日備中ヲ卷ニ沼ノ城ニ至ル甚雨  
ニ依テ一日此地ニ滞留ス同八日姫路ニ著ク  
同十一日尼ヶ崎ニ至ル爰ニ於テ秀吉髪ヲ断  
ツ同十二日富田ニ至リ三七信孝信長ノ三男ニ謁  
見ニ秀吉頓首ノ紅淚ニ沈ム同十三日既ニ  
テ秀吉軍ヲ山崎表ニ登メ光秀ト戦フ光秀力  
兵大ニ敗走メ光秀勝竜寺ニ逃ケ入ル秀吉亦  
勝竜寺ヲ圍テ攻ント欲ス光秀勝竜寺ヲ遁出  
テ潛ニ坂本ノ城ニ赴カント欲ス伏見ヲ経テ  
小栗栖ニ至ル野伏蜂起ノ遂ニ光秀ヲ殺ス干時

光秀五歳從卒其首ヲ斬リテ是ヲ溝中ニ藏メ逃  
ケ去ル明智左馬助安土ニ有テ味方ノ敗亡ヲ  
聞キ安土ノ城ヲ焚テ坂本ノ城ニ入り光秀刀  
子共二人ヲ殺メ已モ亦自殺ス同十四日秀吉  
三井寺ニ至ルノ処ニ村井春長軒力家人光秀  
カ首ヲ溝中ヨリ探出メ持參ス秀吉悦テ杖ヲ  
以テ其首ヲ打ツ光秀カ屍ヲ求テ是ヲ繼キ粟  
田口ニ磔ニス

十七日 大神君ノ臣酒井元衛門尉忠次松平  
主殿助家忠進ヲ津嶋ニ陣ス



十九日羽柴秀吉使ヲ馳テ 大神君ニ告テ  
云ク逆徒光秀ヲ殺シ残黨悉ク退治シ上方一  
片ニ平均スルノ間 大神君御凱旋アルヘシ  
ト云

十一日 大神君尾碕ヲ出テ御飯国ニ赴セ玉  
フ

秀吉丹羽長秀池田勝入等ト議ノ信忠ノ息三  
法師ヲ以テ信長ノ後嗣トメ且嗣国ヲ分ツ尾  
張ハ信雄義濃ハ信孝丹波ハ秀吉近江ノ長濱  
ハ勝家大坂及ヒ尼ヶ崎兵庫ハ池田父子若狭

及ヒ近江ノ高嶋志賀二郡滝川左近將監一益  
上<sup>ヨリ</sup>碓<sup>既</sup>橋<sup>ハ</sup>秀吉法師ヲメ安土ノ城ニ居ラシメ  
長谷川丹波守前田玄以ヲ是ニ<sup>ニ</sup>調護セシム近  
江三十万石ヲ以テ厨料トス三法師幼稚ノ間  
信雄ヲメ莫ク提セシム

信長生害ノ告ヲ聞テ甲信兩國ニ在テ城ヲ守  
ル信長ノ從士等森庄籠ハ川中嶋ヲ退キ道家  
長八節ハ小諸ヲ去ル毛利河内守ニ伊奈ヲ退  
テ各京都ニ逃ケ上ル甲州ノ府ニ在テ是ヲ守  
ル川尻肥後守カ從卒等上方ノ變ヲ聞テ皆離



散ニ残兵僅ニ三十餘人川尻モ既ニ甲府ヲ奔  
テ京都ニ赴カント欲メ國人川尻カ日比威ヲ  
恣ニスルコトヲ惡シテ此時ニ及ヒ是ヲ殺サ  
ント催ス于時大神君本多百助ヲメ甲助ニ  
赴カシメ信長ノ生害ヲ知ラセ且ツ川尻カ安  
否ヲ問玉フ川尻我ヲ謀テ誅セラルト欲シ  
テ本多ヲ巴力宅ニ招テ饗應ニ酒ヲ勸ムル  
數盃本多暫時醉眠ス于時川尻長刀ヲ以テ本  
多ヲ殺ス國人等是ヲ聞テ蜂起ニ後ニ川尻ヲ  
擊殺ス川尻カ首ヲ山縣カ家人三井弥一郎是

ヲ得タリ川尻甲府ニ在テ先方ノ士ヲ親交セ  
カルカ故也成瀬吉右衛門尉日下部兵衛門尉  
是部次郎右衛門尉正綱及穴山カ軍勢等是皆  
甲府素内者タルニ依テ大須賀五郎左衛門尉  
康高ニ副ヘラレ各大神君ノ余ヲ奉テ甲州  
ニ赴ク成瀬是部等古府中ニ在テ甲助先方ノ  
衆ヲ招テ多ク大神君ノ旗下ニ屬セシム大  
須賀康高ハ市川ニ居メ令テ出メ先方ノ士ヲ  
招シ大神君足高山ノ麓天神川ノ古城ヲ修  
セシメ稲垣平右衛門尉長茂ヲシテ守ラシメ



玉ノ其後渡辺半蔵稲垣ニ代テ是ヲ守ル  
先日大神君本多弥八郎ヲ御使トメ依田右  
衛門尉ニ命有テ曰汝速ニ甲州ニ入テ旧好  
ノ士ヲ相催シ其勢ヲ并テ軍忠ヲ励スヘキノ  
首台命ヲ蒙リ則依田甲州ニ登メ柏坂峠ニ  
旗ヲ建テ国中ノ士ヲ招ク横田甚右衛門尉是  
ニ應メ最初ニ来ル是ヨリ甲州ノ士来リ集ル  
者千餘人ニ及フ依田其勢ヲ携テ小諸ノ城ニ  
飯ル  
甲州信州上品ニ留テ城々ヲ守ラシムル信長

從士等城ヲ弃テ京都ニ上ル是ニ依テ此三ヶ  
国空国ト成テ其主ナシ故ニ隣國ノ諸將是ヲ  
窺フ長尾景勝其兵三千餘騎ヲ卒ニ信州ニ軍  
ヲ出メ川中嶋ヲ得ル北条氏直五万餘騎ヲ卒  
メ攻テ甲州ヲ取ラント窺フ于時甲州ノ士大  
村三方衛門同姓伊豆守ヲ首將トメ一揆ヲ催  
シ北条氏直ニ志ヲ通シ秩父新太郎氏康カ軍  
勢ヲ甲州ニヒキ入ント約ヲ定ム是ニ依テ秩  
父新太郎ハ荻坂口ヨリ兵ヲ甲州ニ登シ北條  
九衛門太夫ハ八千餘騎ヲ卒ニテ郡内口ヨリ



攻入ラント欲シ北條安房守七千餘騎ニテ惠  
林寺勤ヨリ登向セント催ス大村三右衛門尉  
ハ笛吹川ノ辺ニ陣又秩又カ来ルヲ待ツ于時  
樋口ノ某ト云者有リ 大神君ニ及忠ヲノ竊  
ニ此由ヲ告ルニ依テ 大神君ノ命ヲ奉テ穴  
山カ軍勢有泉大學助穗坂常陸介速ニ笛吹川  
ニ兵ヲ登ニテ大村ヲ攻撃ツ一揆ノ徒黨等大  
ニ敗七ス穗坂有泉悉ク是ヲ追ヒ撃ツ秩又新  
太郎武勲甲勲ノ境苅坂口ニ至テ出張スルト  
イヘトモ大村カ一味ノ賊徒等悉ク撃捕ラル

凡爾兼テ計畧相違スルニ依テ苅坂口ヨリ軍  
ヲ返ス

大神君有泉穗坂カ速成ノ軍功ヲ褒セテ御  
感狀ヲ兩筆ニ賜ル

今度苅坂口一揆等カ東部野山ノ處  
各々合大村ノ兵ヲ追テ追々追討補  
作由令感狀ハ所々國御禮ノ禮地ニ  
行由ハ又尾張中ノ事ヲ言及依ルノ月  
昨立一日ノ御志ハ依テ画一ノ長官守テ也  
下作ハ牒合作テ下者ニ申ハ由據作テ



淨

天正丁丑

六月廿二日

家康

此泉大寺物友

恒以常陸今友

梅喜斎人務丸

大村力隱謀ノ訃人樋口ノ其此忠ニ依テ大神  
君召テ御家人ニ屬ス

大村ヲ退治有テ後イニ夕在々所々ニ惡徒等  
多ノ有テ甲信平均ニ靜謐ナラス是ニ依テ

太神若大久保七郎右衛門尉忠世ヲメ甲筋ニ  
ニ赴カシメ玉フ忠世 命ヲ奉テ甲筋ニ往テ

上口ニ陣ノ近辺ヲ治ニト欲ス石川長門守康  
通本多豊後守廣孝其子彦次郎康重忠世ト氏

ニ 命ヲ奉テ甲筋ニ至ル大久保忠世石川康  
通里部正綱等佐久郡諏訪ニ至テ忠世康通正

細ト議メ諏訪小太郎頼忠ヲメ 大神君ノ御  
味方ニ屬セシム大草知久下庄等令

大神君ノ旗下ニ屬ス  
小笠原掃部助信嶺 大神君ノ幕下ニ屬メ軍

忠ヲ尽スヘキノ旨管沼藤藏ヲメ是ヲ請フ



大神君是ヲ許シ玉フニ依テ信嶺幕下ニ属ス  
九四日 松平与次郎忠吉卒ス二村忠吉カ子  
信吉ハ松平伊豆守信一カ養子ト成テ藤井ノ  
家ヲ継クニ依テ与次郎忠吉嗣子トシ故ニ忠  
吉カ甥内膳正家廣正カ一節忠兼テ後嗣トス

七月小

三日 大神君甲辰ノ難ヲ定給ハニ鳥ニ師ヲ  
帥テ濱松ノ城ヲ御進登有テ掛川ノ駅ニ着御  
松平主殿助家忠山口ニ陣ス  
四日 大神君田中ニ着御

五日 大神君軍ヲ江尻ニ移シ玉フ  
七日 大神君大宮ニ御陣座アリ  
八日 大神君庄地ニ着御  
九日 大神君甲府ニ着御家忠庄地ニ陣ス北  
條氏直四万餘騎ノ軍勢ヲ卒メ信辰ウスイ峠  
ヲ越テ作郡ニ出張ス  
十四日 大神君酒井左衛門尉忠次ニ信州十  
二郡ヲ賜ル

一位刑十二分孫利四分一書外法役等不  
入ノ五重ハ事



一 彼國門付申向て下為之方計信州を二  
 篇に割るを乞ふに退居史落山人の忠相  
 弘正元内名に下共同前之事  
 一 國中一篇の納いし歳二年に地多前勢  
 一 一以て十二款不納りて不知相違有  
 一 あり爰に王家同布之事  
 一 國元因んて國元の方同布可有之蘇  
 一 信州一篇のり生信元の國心少智於  
 一 遠北の事可加下知事  
 一 信州元不和成より移りてゑあて知事

一 實侯可付系由元因んてあての  
 一 者し悔く水不可有おま一能之制流あて  
 一 至りて一切不可許容も也仍如件

去正十年  
 七月十四日 家康

酒井正忠の厨友

酒井忠次東三河ノ軍勢ヲ卒メ信局伊奈郡ヲ  
 経諏訪ニ至テ令ヲ出メ云ク信局悉ク忠次力  
 指揮スル処ナリ諏訪小太郎頼忠モ忠次ニ從  
 ノヘキノ旨ヲ觸レ遣ス頼忠是ヲ憤テ云我レ  
 大神君ノ幕下ニ屬ス何ソ忠次ニ從カハニ



ヤト謂テ是ヨリ頼忠墨ヲ固メ火炮ヲ飛シ兵  
ヲ登メ夥シク忠次ヲ拒ク是ニ依テ大神君  
重テ大久保ト高右衛門尉忠世及ヒ折井市丸  
衛門尉次昌権田織部正ヲノ諏訪ニ赴カシメ  
玉フ 余有テ曰忠次カ云フ処ノ如クニハ冰  
人初命ノ如ク 大神君ノ幕下ニ属シ軍忠  
ヲ励スヘキノ旨也頼忠 鈞命ニ從ヒ家人弟  
野丹波守房清次市丸衛門尉房重ヲ以テ甲府  
ノ御陣ニ指越シ 台命ノ實ヲ窺フ 大神君  
茅野房清次房重ヲ御前ニ召テ茅野ニ暑衣沢

ニ胴服ヲ賜テ頼忠祢旗下ニ属メ忠義ヲ尽ス  
ヘキノ旨 余セラル茅野沢 台命ヲ奉テ諏  
訪ニ皈テ頼忠ニ語ル是ニ依テ頼忠其子頼永  
ヲ携ヘ甲府ノ御陣ニ参候シテ 大神君ニ謁  
ステ時御脇指保昌五節ヲ頼忠ニ賜フ  
命有テ曰信局少公麾下ニ属セラルノ処アリ  
汝速ニ諏訪ニ皈リ吾カ 命ヲ待ツヘニ重テ  
令ヲ下シ玉フヘキノ旨 仰テ蒙テ頼忠父子  
諏訪ニ皈ル 大神君豆州征戸ニ若ク修セシ  
ノ牧野右馬允康成ニ命シテ守ラシメ玉フ與



国寺ノ城ヨリ是ニ移リ守ル亦久野三節左衛  
門尉宗能康成ニ加テ是ヲ守ル

十五日 酒井忠次諏訪ヲ登ノ大河原白濱ニ  
テ飯ル

此日 大神若武川ノ士折井市左衛門尉次昌  
米倉主計助ニ御書ヲ賜ル

於之郡利ノ事色白ク由祝儀各海取  
活海可ク抽忠信ムル了海ニ

七月十六日 家康  
米倉主計助

是ヨリ先キ今年三月 大神若及ヒ信長甲州  
ニ御登向有テ武田勝頼生害スルノ後甲州先

方ノ士ヲ召ル、是信長堅ク是ヲ制スルトイ  
ヘトモ 大神若ノ士成瀬吉右衛門尉一斎先

年暫ク武田ニ属スルノ時折井ノ厚恩ヲ受ル  
是ニ依テ成瀬一斎折井及ヒ米倉兩輩ヲ以テ

竊ニ 大神若ノ旗下ニ属セシム既ニメ此年  
六月 信長生害ノ後 大神若米倉折井ヲ召テ

武川ノ諸士ヲ御味方ニ属セシムヘキノ



余ヲ奉テ甲筋ニ皈テ武川ノ諸士ヲ各  
大神君ノ幕下ニ属セシム其後北條氏直武川  
ノ士ヲ謀テ招クトイヘトモ是ニ應セス氏直  
ニ志ヲ通スルノ士楠菴ル処ノ若信筋ノ境小  
沼ノ小屋武川ノ兵士等是ヲ攻撃テ其利ヲ得  
タリ  
十七日 松平主殿助家忠及ヒ三筋ノ諸士大  
河原ニ陣ス  
十八日 三筋ノ軍勢等諏訪ニ屯ス  
十九日 高嶋ノ城和融成ラサルニ依テ酒井

忠次三州ノ軍勢及ヒ小笠原掃部助信嶺等軍  
ヲ高嶋ニ築ス  
廿四日 夜ニ入り松平又七郎家信干時十カ  
三歳  
陣ニ歎襲来テ攻撃ス家信イニ夕若年ナリト  
イヘトモ武川ノ家人等多ク属スルニ依テ又七  
郎カ陣日夜ノ警衛敢テ怠タラス伍ヲ乱サス  
利ヲ整ヘ是ヲ拒リノ間歎遂ニ利ヲ失テ退リ  
廿六日 夜ニ入り松平主殿助家忠伏兵ヲ設  
ケ敵數輩討捕ル 大神君其軍功ヲ称譽シ玉







ノ御味方ノ兵ト行程一里ヲ隔ツ山岳高ク篠  
ハ畝味方五ニ其陣ノ近キ一ヲ知ラス然ル処  
ニ大久保忠世カ家人石上兎角之助ト云者若  
田ノ小屋ニ在テ氏直カ芦田ノ小屋ヨリ軍ヲ  
出スヲ聞テハケ巖ヲ苦メ越ヘ甲乙交ニ来テ  
此由ヲ告ル諸將聞テ大ニ驚キ諸卒ハ各処ノ  
案内ヲ知ラサルニ依テ甲乙交ノ郷人太郎九  
衛門ト云者ヲシテ氏直握カ原ニ陣スルヤ否  
ヤヲ窺ハシム太郎九衛門走り飯リ握カ原ニ  
屯ス其兵味方ノ勢二十倍ノ多勢ナルノ由ヲ

告ル御味方ノ諸將是ヲ聞テ爰ニ於テ北條カ  
多勢ト戦ハニ其味方微勢ニメ危ニ軍ヲ新府  
ニ退ケント議ニテ既陣ヲ去ラント欲ス于收  
大久保忠世ト酒井忠次諏訪ヲ祭メ時口論ス  
大久保忠世初ニ諏訪頼忠ヲ御味方ニ属セシ  
ムルノ処ニ忠次カ詞ヲ以テ頼忠志ヲ変メ一  
且款トナル忠世是ヲ是ニ依テ其意趣イニメ  
怒テ口論ニ及フト也  
散セズ忠世忠次殿ヲ争ヒ問答ニ時ヲ移メ日  
既ニ巳ノ刻ニ及フ其間ニ北條カ兵向ヒノ原  
ニ迫ツキ末ル諸將諫テ忠次カ陣ヲ先手ニヒ  
キ退カシム殘ル六人ノ將軍營ニ火ヲ放テ前



後ヲ定テ返ク一番ハ酒井忠次大須賀康高二  
番ハ石川康通三番ハ大久保忠世四番ハ本多  
廣孝五番ハ穴山カ軍勢六番ハ足部正綱各別  
ヲ整ヘ伍ヲ乱サスニテヒキ退シ氏直四万三  
千餘騎ヲ卒メ嶺ナル道ニ兵ヲ進メテ是ヲ直  
下慕ヒ来ル六人ノ將返レ合テ敵ニ向フコト  
十餘度也北條其勇力ニ恐テ急ニ攻メ撃テヲ  
得ス並ヒ行ク莫七里御味乃ノ軍勢遂ニ勇氣  
撓ニス殊ニ殿ノ足部正綱武勇ヲ震フテ數回  
甲府ニ至テ此告フルニ依テ石川伯耆守教正

ニ命ノ是ヲ救ハシメ玉フ數正多勢ヲ卒メ  
進ニ迎ル氏直多勢ノ援助ヲ見テ是ニ擬議ノ  
敢テ慕々ナリ陣ヲ若御子表ニ張ル御味乃ノ  
軍勢三千ノ兵一死ナリ軍ヲ全メ新府中ニ皈  
ル  
七日北條カ軍勢新府中ノ近辺ニ進ム是ニ  
依テ御味乃ノ軍勢新府中ノ山ニ出張ス敵味  
方川ヲ隔テ陣ス其間十余町  
此日大神君平岩親吉ニ命ノ伏兵ヲ設ケ  
敵七人ヲ撃シム



昨日由淵勝左衛門尉存候トメ出張ニ北條力  
軍士山上強右衛門尉ト詞ヲカハメ相戦テ其  
勇功ヲ称セラレ

大神君御感狀ヲ勝左衛門尉ニ賜ル

昨六日敵少ク引出列ニ入リ

之旨令経意ハ此旨ハ是ヨリ連テ

事及及ハ此旨ハ是ヨリ連テ

八月七日 家康

曲園衛門尉

八日 大神君軍ヲ淺生原ニ出シ玉テ兵ヲ三

隊ニ分テ敵ノ来ルヲ待玉テ北條カ兵堅陣ヲ

見テ退テ若御子ニ陣ス

十日 大神君新府中ニ陣ヲ移シ玉テ依テ

古府ニ相殘ル諸卒等各新府ニ至テ馳来ル

大神君鳥井彦右衛門尉元忠水野藤十郎勝成

ヲメ古府ニ留テ守ラシメ玉テ三宅惣右衛門

康貞松平玄蕃頭清宗大野村ヲ警衛ス

十一日 大神君余ノ新府ノ城ニ要害ヲ修セ

シメ玉テ

十二日 北條左衛門太夫 弟氏政 三坂ノ城ヨリ



一万餘騎ノ兵ヲ黑駒表ニ登ノ上口山ニ陣ス  
北条氏直兼テ謀ヲ廻シ大神君ノ兵善光寺  
及ヒ古府中ノ守リ微勢タルヘシ左衛門太夫  
ヲメ彼ニク所ヲ襲ハシメ陣營ニ火ヲ放テ鞅  
ニク是ヲ攻撃ツニ於テハ兩処警衛ノ兵狼狽  
ノ敗トスヘシ新府中ニモ是ヲ聞テ亦周章ス  
ヘシ其弊ニ乘メ急ニ新府ヲ攻メハ大神君  
新府ヲ守ルヲ得ス新府ノ城ヲ避ケ下山筋  
ヲ経テ駿碕ニ退キ玉フヘシ是ヲ頻リニ追ヒ  
掛悉ク討捕ルヘシト真約ヲ定テ北條左衛門

太夫上口ニ陣メ是ヲ伺フ其計畧ヲ密ニ古府  
中ニ告ル者アリ是ニ依テ島井元忠水野勝成  
急ニ古府ヨリ兵ヲ登ス三宅康貞松平清宗此  
告ヲ聞テ共ニ軍ヲ出シテ右衛門太夫カ陣ス  
ル上口山ニ兵ヲ登メ攻撃ツ左衛門太夫兼テ  
古府中ノ兵微勢タルヘシト思ヒ悔ルノ処ニ  
案ニ相違メ多勢ヲ以テ本意ニ襲ヒ来ルノ間  
謀ヲ失テ退キ去ント欲ス于時御味方ノ軍勢  
急ニ攻撃テ敵ヲ黑駒ニ追入ル右衛門太夫士  
卒ヲ指揮シ返シ合テ挑戦ヲ水野勝成力軍士



大田仁藏先登ニ進テ一番首ヲ得タリ三宅康  
貞鳥井元忠松平清宗カ後卒等當本ノ町口ニ  
進テ競ヒ戦テ大利ヲ得タリ松平清宗鎗ヲ合  
スル度ニ度術ヲ尽メ奮戦ノ水野カ軍士茂野  
善十郎落合九平太三宅カ從兵大河内等殊ニ  
奮戦テ軍功ヲ尽ス敵遂ニ利ヲ失テ大ニ敗七  
ス御味方ノ軍士是ヲ追撃ツ首ヲ得ル度三百  
餘級其首ヲ新府ニ献ス  
大神君其戦功ヲ褒セラルル此首ヲ敵陣ニ向テ  
新府中ニ梟セラルル此軍功ニ依テ鳥井彦右衛

門尉元忠ニ甲刃ノ部内ヲ賜ル  
北日 大神君古府中御巡見トメ新府ヲ登メ  
古府ニ渡御有テ諸將ノ軍功ヲ賞セラル  
元六月 大神君松平主殿助家忠ニ命メ新府  
ノ向城ヲ守ラシメ玉フ  
元七日 新府中ニ陣スル御味方ノ諸將等相  
議メ各謀者ヲ遣ヒ竊ニ敵陣ヲ窺カハシム大  
須賀康高カ軍士是ニ勅タル武功ノ者アリ諸  
將ノ謀者彼ヲ先トメ敵陣ヲ伺フ敵大豆生田  
ノ砦ニ在ル度ヲ見テ飯リ来テ此由ヲ告ル是



ニ依テ大須賀康高榊原康政ヲ先陣トシ諸將  
兵ヲ登シテ大豆生田ノ砦ヲ襲フ敵拒キ戦フ  
トイヘトモ御味方ノ兵進テ是ヲ攻撃ツ遂ニ  
大豆生田ノ砦ヲ破ラタリ首級ヲ得タリ  
元九日 松平主殿助家忠新府ノ向城ヨリ輕  
卒ヲ登メ苅田ス吏士ヲメ敵ヲ押ヘシム敵敢  
テ是ヲ拒クコトヲ得ス

北條氏直先日武川ノ諸士ヲ招クトイヘトモ  
大神君ノ麾下ニ屬メ氏直ニ志セス氏直再  
ニ使ヲメ書簡ヲ持シメ武川ノ中ニ遣<sup>ス</sup>中沢縫

殿右衛門尉同姓新兵衛尉是ヲ謀テ其使ヲ殺  
メ氏直カ書簡ヲ 大神君ニ献ス 大神君其  
志ヲ褒シ玉フ其後逸見日野村ノ臺花水坂ニ  
メ武川ノ士敵ト戦テ山高宮内少輔柳沢兵部  
等首級ヲ得ル其首ヲ新府ノ御陣ニ献ス武川  
ノ諸士度々忠義ヲ尽スニ依テ遂ニ各ニ本領  
ヲ賜ル



天保九年九月廿一日  
北条氏直力兵作候卜ノ御味方ノ陣ニ  
来リ窺テ酒井左米門尉忠次力一手ノ軍勢シ  
メ是ヲ追ヒ撃シム  
保科越前守正直高遠ノ城ニ在テ酒井左米門  
尉忠次ヲ以テ太神君ノ麾下ニ属シ軍忠シ  
励シト請フ忠次此旨ヲ新府中ノ御陣ニ達ス  
太神君是ヲ許シ玉フ于收藤沢次郎頼親伊奈

家忠日記追加卷之八

自天正十年九月  
至同十一年十二月

天正十年壬午

九月

一日 北条氏直力兵作候卜ノ御味方ノ陣ニ  
来リ窺テ酒井左米門尉忠次力一手ノ軍勢シ  
メ是ヲ追ヒ撃シム  
保科越前守正直高遠ノ城ニ在テ酒井左米門  
尉忠次ヲ以テ太神君ノ麾下ニ属シ軍忠シ  
励シト請フ忠次此旨ヲ新府中ノ御陣ニ達ス  
太神君是ヲ許シ玉フ于收藤沢次郎頼親伊奈



郡箕輪ノ郷ニ要害ヲ構ヘテ是ヲ守リ  
太神君ニ叛リ正直兵ヲ箕輪ニ突メ攻討夏三日遂  
ニ箕輪ノ城ヲ拔リ  
十月日 曾根平太夫カ忠死ニ依テ其子松千  
代ニ 太神君大久保忠隣成瀬一斎ニ命シテ  
采地ヲ賜ル

甲列曾根堀内分慈照寺寄進共ニ四拾貫  
文後列改替慈照寺分之内拾貳貫文并石

大五田被官等ノ事

右文平左支枕中牧令討死ノ事并領下有

相違者也仍此件

大久保新十郎

九月十九日

成瀬吉左衛門

曾根松子代後

廿五日 太神君豆列後及ノ境三牧橋ノ城ヲ  
松平周防守康親ヲノ守ラシメ玉フ小笠原安  
藝守信元同姓丹波守安次是ニ加ル北条ノ軍  
勢小田原ヨリ三島ニ至テ出張ス三牧橋ノ城  
兵等進テ是ト戦フ小笠原丹波守安次奮戦テ  
死ス小笠原<sup>安</sup>藝守信元カ後辛小笠原市藏大嶽  
弥吉勇ヲ奮テ戦死ス此戦功ニ依テ安次カ子



新九郎廣勝及七小笠原安藝守信元ニ富士郡  
ニノ各采地千石ヲ加賜セラル  
垂山ノ敵屢来テ三牧橋ノ城ヲ窺フトイヘト  
モ松平周防守康親堅ク守テ是ヲ拒クノ間敵  
城ニ近付ク夏ヲ得ス  
本多作左衛門尉重次沼津ノ城ニ有テ是ヲ守  
ル敵垂山ノ城ヨリ軍ヲ戸倉ニ出ス重次沼津  
ノ城ヨリ兵ヲ發シテ是ヲ攻討ツ敵利ヲ失テ  
敗凶ス重次是ヲ垂山ノ外郭木戸ノ邊ニテ追  
討テ首級三十余ヲ得タリ

十月大

六月 新府ニ陳スルノ詩將各輕兵一人ヲレ  
テ御嶽ノ警衛ニ赴カシム  
廿四日 今度保科越前守正直 太神君ノ幕  
下ニ属ス是ニ依テ 太神君信列伊奈半郡ヲ  
以テ正直ニ賜ル

今度對面方にて之忠信し由内方在事の射披  
房寛以祐如く也早建於手如不伊奈郡  
半分て初如くふて之如道法此旨下後地

軍忠 林如件



天正十年

十月廿四日

赤原

保科越中守

此日 太神君高木九助シレテ高木善次郎清  
 秀後ト号ス水ヲ召ス清秀武名アルニ依テナリ  
 清秀召ニ應シテ新府ノ御陣ニ参候シテ始テ  
 太神君ニ謁シ御家人ニ属ス食邑千石ヲ清秀  
 ニ玉ル清秀是ヨリ先キ水野ニ属ス  
 廿九日 北条氏直数日 太神君ト對陣シテ  
 兵ヲ締ヒ謀シ廻ストイヘトモ其利ナク勇力  
 漸ク衰フ是ニ依テ北条義濃守ヲ以テ

太神君ニ和シ允テ曰ク上野沼田ノ地ヲ以テ  
 甲列都苗郡及ヒ信列佐久郡ノ地ニ易ヘ甲信  
 兩國ハ 太神君全ク領内アルヘシ上野ハ一  
 円ニ氏直是ヲ領スヘシ 太神君是ヲ許シ玉  
 フニ依テ和睦成ル于取氏直大道寺孫九郎直  
 政及ヒ山角ノ某兩人ヲ質トメ 太神君ニ献  
 ス 太神君酒井小五郎家次ヲメ北条カ方ニ  
 遣ハス  
 晦日 太神君ノ姫君ヲ以テ北条氏直ニ嫁シ  
 至フヘキノ旨御契約ナリ是ヲ依テ互ニ質シ



取り置クニ及ハス太神君鳥居元忠榊原康  
政水野勝成シテ北条カ質大道寺山角シ三  
坂ノ城ニ送り返サシメ玉フテ北条義濃守氏  
親ニ是ヲ渡メ鳥居榊原水野等三坂ヨリ取ル  
太神君御味方ノ軍勢築六ノ河上岩村田ノ城  
ヲ攻ム城兵堅ク拒キ守テ城陷ラス寄手ノ軍  
勢利無シテ引退カント欲スルノ処ニ城兵進  
テ出慕ヒ戦フ于時依田右兼門依後殿シテ勇  
シ勵シ奮ヒ戦ヒ大ニ利ヲ得テ敵ヲ討捕ル  
三百余人殘兵皆敗シ去ル太神君其戦功ヲ

褒セラレ依田右兼門依其才新九郎源八郎及  
ヒ從卒依田豊後守同姓右近同姓主膳正奥手  
金保等ニ御感状ヲ玉ル

十一月小

四日太神君命シテ上口山取出ノ要害ヲ修  
世シメ玉フ

此日松平主殿助家忠明五日善光寺表ニ発向  
スヘキノ旨鈞命ヲ奉ル

五日松平主殿助家忠兵ヲ卒メ善光寺ニ赴  
ク



六日 家忠向山ニ屯ス

七日 勝山取去ノ要害ヲ築ク

此日 柴田七九布ヲ部將トシテ 依田カ軍勢先

陣シテ 伴野刑部太補カ 拵指籠ル 前山ノ城ヲ攻

テ 是ヲ陷ル 刑部太補ハ 小笠原カ族ニシテ 数

代弓馬ノ名人ナリ 此取ニ至テ 伴野家滅凶ニ

テ 其道ヲ断絶ス 其後 柴田 依田 兵ヲ突シメ 高

棚及ヒ 小田井ノ城ヲ攻テ 是ヲ拔ク

信及ノ士 手原善心 手尾平茂 大井民部 少補 小

山田六九 米門尉 森山豊 後守 志賀与三 九米門

尉 柏木六郎 等降シ 乞テ 各 太神君ノ幕下ニ

属ス

十二月大

三日 太神君ノ鈞命ヲ奉テ 松平主殿 助家忠

陣ヲ上口ニ移ス

七日 上口ノ修築成ル

十一日 太神君古府ニ 御陣アリ 松平主殿 助

家忠 古府ニ 参修シテ 太神君ニ 謁ス 命有テ

家忠ニ 休暇ヲ玉ハル 其余三列ノ 諸將ニ 各暇

ヲ玉ハリ 明十二月 暇因スヘキノ旨 台命ヲ



蒙ル

此日 柴田勝家カ使者古府ニ来ル織二十端  
綿百把贈五尾ヲ以テ 大神君ニ献ス

十二日 三列ノ諸将甲列ノ古府ヲ發シテ本  
国ニ赴リ

今度 太神君ノ麾下ニ属スル甲信兩國ノ諸  
士ヲ甲府ニ召テ忠志ノ輕重ヲ弘サレ或ハ全  
ク本領ヲ紫堵シ或ハ旧領ヲ穢セラルテ取平  
原ノ某ニモ本領ヲ玉ハルヘキノ処ニ甲列ノ  
士是ヲ惡テ先日笛吹川一戦ノ戦一揆ノ本人

大村三右衛門尉ト平原同意スルノ由ヲ訶ル  
又田村ノ郷民等此儀必定タルノ由ヲ頻リニ  
訟フ是ニ依テ平原及ヒ訶人ノ輩ヲ 太神君  
御前ニ召テ對變ニ及フ平原遂ニ逆意ナキ旨  
シ争ヒ遁レテ御前ヲ退出ス其甲乙未夕決シ  
難キヲ有ニ依テ平原シレテ押へ笛シメ玉フ  
平原内ニ野心有ノ故カ是ヲ誅セラルト欲  
メ奥山新八郎カ家人ノ童子其子奥山カ刀ヲ  
携ルヲ平原走リ寄テ是ヲ奪ヒ取テ 太神君ノ  
御前ニ於テ  
テ争カ論ヲタルニ依テ 彼童ヲ忽ニ殺シテ勇ヲ振  
平原カ論ヲ帶セス



テ切テ廻ル諸士多ク御前ニ候スルトイヘ  
周章シテ敢テ平原ニ向フ者ナシ然ル<sup>ル</sup>此処ニ  
甲刃ノ士辻<sup>ツ</sup>兵束尉半捕ニセント是ニ向フ  
手原附近ク詰寄せ辻カ真向シ切ル辻勇士夕  
リトイヘトモ両眼ニ血流レ入ルノ間途ヲ失  
テ進ム<sup>レ</sup>ヲ得スシテ遂ニ退ク平原弥勇進テ  
太神君ノ御前ニ向テ切テ入ル取土屋権右束  
門尉御前ノ兩戸ヲ引タツル小幡又兵束尉<sup>ト</sup>  
張<sup>六</sup>守<sup>カ</sup>力<sup>カ</sup>男<sup>カ</sup>尾<sup>カ</sup>短<sup>カ</sup>刀<sup>カ</sup>ヲ以テ平原ニ向ヒ戦フ小幡左  
ノ手ニ疵ヲ被テ聊カ退ク永見新右束門尉傍

ナル鎧ヲ持テ平原ニ向ハント欲ス平原急ニ  
進テ永見ニ切テ掛ルノ間永見鎧ヲ取ナホス  
隙ナク石突ヲ以テ平原ヲ突倒ス于取小幡走  
リ寄テ遂ニ平原ヲ討殺ス太神君小幡カ勇  
切シ羨称シ玉フ辻弥兵束尉志ハ勇ナリトイ  
ヘトモ劔戟ヲ提相勸クノ敵ニ手捕ニセント  
無<sup>カ</sup>切<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>ノ是ニ向フノ条卒忽ナルノ旨ヲ  
命セラル本ヲ放サル  
今度太神君ノ幕下ニ属スル甲信兩國ノ諸  
士等自今以後忠信ヲ尽スヘキノ旨遠列秋葉



寺ニ於テ各連署ノ起請文ヲ昏レメ玉フ成湊  
吉左末門尉目下部兵右末門尉是ヲ奉ル  
連署ノ誓盟ヲナス輩今福新右末門尉曾根下  
野守駒井右京進青沼助兵末尉小菅又八郎三  
枝松監物跡部九郎右末門尉河窪新十郎下曾  
根源六郎跡部民部太補油川刑部少補大井監  
物岩手助九郎油川弥平次受原日向守三枝松  
平右末門尉  
以上是ヲ武田親族衆ト云フ  
長沼佐九郎末門尉竹居郷右末門尉窪田弥平左

末門尉白沢傳兵末尉天川平次郎今井弥四郎  
以上是ヲ二十人衆ト云フ  
原三右末門尉山本源三郎跡部源左末門尉高  
室清三郎米倉造酒之丞同姓半兵末尉手貝織  
了正世野神太郎平林友久山中主水正  
以上是ヲ近習ノ衆ト云フ  
土屋三郎右末門尉岩間將監窪惣左末門尉小  
宮山又七郎窪鴻平五郎有賀式部少補高林又  
十郎須田惣市郎市川内膳石原孫八郎飯室庄  
左末門尉同姓与左末門尉河西孫右末門尉三



田大茂少捕御手洗後十郎横地弥兵衛尉内膳  
後織了正横地喜三郎白沢久助長井又五郎窪  
田内記中沢惣九郎河野庄九郎米門尉塚原次九  
米門尉中沢主税助鎌田權九郎米門尉内後源久  
飯田右馬助今福求之助同姓茂後五味主税助  
保坂監物青沼縫殿助南宮十兵衛尉凡祭兵介  
南角十九郎米門尉牛貝又三九郎米門尉水上六郎  
兵衛尉向山新之丞窪島又一郎安陪源太郎保  
科新兵衛尉小田切大隅守山本主殿助松月齋  
延子駒井官内太補工後市兵衛尉同姓弥九郎

門尉同姓甚太郎市川官内少捕同姓喜三郎小  
畑後五郎喜三郎米門尉同姓甚太郎市川官内少  
捕以上同少近習ノ歟ト云フ又喜三郎大茂又茂  
萩原甚之丞窪田助之丞同姓茂後九郎米門尉中村  
後六郎石坂茂兵衛尉志村又九郎米門尉山本孫  
右米門尉河野傳之丞

以上是少小十人顯卜云フ

大志力又二郎海野市又其利六之助中沢市九  
郎米門尉大窪惣右衛門尉長谷又三右衛門尉今  
井主計助青沼又兵衛尉河合作兵衛尉塚田内



菴女志村善右兼門尉五味源兵兼尉市川新右  
兼門尉塩里屋久兵兼尉萩原市之丞岩下七郎  
右兼門尉惣田七兵兼尉南宮庄左兼門尉窪田  
平右兼門尉野呂瀬庄之丞坂田次左兼門尉南  
切源右衛門尉宮沢善兵兼尉三沢佐右衛門尉  
同姓四郎兵衛尉野川新五兵衛尉小池主計久河  
西善兵兼尉天川兵丁少補島田外記岩下又左  
衛門尉渡邊半左兼門尉村松喜太夫安丁式部  
少補塚本喜兵兼尉南宮源之丞野沢善右兼門  
尉今井兵丁少補末木宮内太補沢友兵部太夫

河口彦三郎山村彦兵衛尉野沢徹丁正深海民  
部太補加々凡右兼門尉中山久右衛門尉高野  
清七郎初康庄右衛門尉仁連木郷左衛門尉太  
田宮内少補小林主稅助小田切主稅助若槻次  
布左衛門尉小池田兵衛尉河野又一郎細野源  
五右兼門尉安丁惣十郎須田辰丁少補植原市  
之丞岩下郷左兼門尉山下弥兵兼尉樋口三郎  
右兼門尉飯田甚五右兼門尉飯島作右兼門尉  
河野好右兼門尉花置友兵衛尉若槻主計久一  
瀬弥五左兼門尉小宮山郷右兼門尉折井民丁



少捕

廣瀬美濃守三科傳三布石黒將監石原五布右  
束門耐友堂新兵束耐天川宮内少捕中込又兵  
束耐小沢佐左衛門耐石原郷右束門耐保科喜  
右束門耐飯室宮内少捕同姓八布兵束耐某体  
原卷之八花輪又三布横田善次布飯井友四布  
河手又左束門耐萩原孫兵束耐小沢喜平次大  
窪式了少捕三井勘三布大島居友太郎長坂十  
左束門耐上村右近丞齋友修理亮廣瀬一右束

門耐本郷源三布秋山権之八原帶刀成島五布  
福島十左束門耐磯野左太夫内友主膳正長井  
井内窪田又右束門耐折井市之丞北村源右束  
門耐同姓八左衛門耐横村弥兵束耐穂坂主計  
八志村清三布中込加八金丸助七布細篁雅乐  
助小林弥右束門耐菊島弥八友田弥三郎<sup>今</sup>村作  
三布須沢又兵衛耐凡間甚八布武友又左束門  
耐吉田助三布岩間作内武川市兵束耐  
以上是ノ山縣奥ト云フ  
落合惣兵束耐祢津宮内少捕柏原平兵衛耐小



田切次太夫河野内記小倉將監古屋織下正河  
野取貞助平尾三右兼門尉叙島作三布金丸善  
次布清水主殿及小池又右兼門尉古屋助之進  
田沢茂右兼門尉清水庄五布丸田甚四郎向山  
又八郎細野弥左兼門尉一游傳右新門尉初麻金兵兼尉石田作  
太夫岩下惣太夫今井清十郎須田弥次右兼門  
尉河西与太布三井平次布東条民下少補饗庭  
民下右兼門尉内田市之丞関口惣十布置角三  
布塚原新四郎山本源三布切下次右兼門尉前  
嵩半兵衛尉平林作兵兼尉叙田市右兼門尉角

田主計及市川四郎右兼門尉切部助七布花本  
弥及東条角右兼門尉河西甚五兵兼尉  
以上是少原集人正安卜云下  
青柳内匠人旨沼卿右兼門尉安倍七布兵兼尉  
矢野長及横田民部右兼門尉坂木清三布秋山  
九右兼門尉横田作之丞萩原作左兼門尉高  
及四郎橘田及十布志村久右兼門尉渡边及三  
郎中込及之丞叙田民下少補  
以上青沼助兵兼尉同心之士  
和田主計及須田長助石里与三兵兼尉水上及



兵未尉深津及兵未尉松原平助九山市兵未尉  
山本源三市窪坂右未門尉内田新十郎同姓又  
三市向山宫内右未門尉大林六九未門尉一瀬  
清四市小湫村右近藥依源七市石田善及同姓  
小兵未尉小宮山新七市大窪權右未門尉高野  
与十市塚原坂八市橋本徹部正兩宮七九未門  
尉田村市九未門尉窪田小七市井尾源三市樋  
口次九未門尉大沢半九未門尉風間坂七市廣  
原庄右未門尉上野助之丞選市之丞細田六三  
市中村九右未門尉依田縫殿丞中沢与八市同

姓善七市野沢弥九未門尉水上久及青柳平五  
市飯田惣兵未尉小沢弥兵未尉筒井坂七市萩  
野助之丞鈴木与三兵未尉河西作右未門尉金  
子助右未門尉風間七市右未門尉中村孫兵未  
尉吉屋新五市辻甚内細野佐左未門尉金九坂  
七市大鳥平五市千野源之丞沼沢主水正忘村  
小兵衛尉點沢猪之助長沢孫九未門尉同姓雅  
乐及同姓弥右未門尉穗坂弥及高野五右未門  
尉穗坂彦次郎依田善五市塚本源及窪田又右  
未門尉野沢次市岩本又次市内坂久九未門尉



以上是少一条衆卜云フ  
芦沢左近松原宮内太夫内及徹戸正下条九九  
衆門尉月姓作兵衆尉月姓弥兵衆尉窪田及三  
布相原次左衆門尉月姓次兵衆尉千野左門月  
姓又右衆門尉月姓七左衆門尉鹽入又左衆門  
尉石原次右衆門尉相原内匠及深沢市左衆門  
尉渡边三左衆門尉相原兵部左衆門月姓惣左  
衆門尉月姓叔負助月姓九九衆門尉井上市右  
衆門尉  
以上是少御嶽衆卜云フ

三木助左衆門尉高橋次左衆門尉岩間与一布  
谷尾惣兵衆尉石黒吉兵衆尉矢田一佐左衆門  
尉原助兵衆尉月姓半兵衆尉長沢左兵衆尉坂  
本傳及野沢加右衆門尉高野弥左衆門尉西山  
金兵衆尉廣瀬主計助月姓市助塚本助七布福  
嶋三布右衆門尉竹田助十布山田源三布野口  
又左衆門尉河野助右衆門尉三科惣七布其利  
民戸左衆門尉切原宮内少捕  
以上是少小山田衆卜云フ  
三科孫兵衆尉大嶋五兵衆尉五味与左衆門尉



鄭川次布左末門尉惣田加兵末尉須田市右末  
門尉窪田弥七布竹田左吉後堂孫四布饗庭主  
稅助石井三右末門尉大窪四郎兵末尉月姓新  
兵末尉橫次甚三郎原監物齋後四郎左末門尉  
古屋新九布菜俵勘左末門尉月姓与助須田淡  
路守原田仁兵末尉細野新右末門尉山田惣右  
末門尉小野喜兵末尉岩下清八郎平井作左末  
門尉菽原大炊中田清兵末尉丹沢主計又坪  
内慶一布串村新兵末尉  
三以上是之遠山安卜云

倉次主水正神宮右近寺島孫右末門尉橘田三  
布右末門尉風間作左末門尉岡勘兵末尉羽連  
善次布月太布次布渡邊惣兵末尉小池七布右  
末門尉名越肥後守林主水正初井兵下少補右  
村源五右末門尉下条主水正穗坂清左末門尉  
岩根清兵末尉若各新九布内田善十布菽原次  
兵尉坂本作右末門尉長田九  
以上是之栗原安卜云  
土屋才兵末尉月姓与久深登左近太夫水上後  
六布井上三布兵末尉丸山治部右末門尉向山



采女小田切雅乐从飯尾右馬从前嶋宮内从月  
姓与九采门尉同姓織戸正若尾后三郎同姓惣  
三郎伊奈半兵采尉乙黑弥三郎内后又七郎白  
井内三郎小池十兵采尉駒井兵戸飯田助九采  
门尉小柳津右采门尉大関五兵采尉矢津庄右  
采门尉小野从太夫竹村新三郎古屋六兵采尉  
同姓与十郎中村清三郎高田新七郎飯野助右  
采门尉后木新九郎

以上是少典殿衆卜云

金西甚九郎安后作九采门尉伴惣助尾崎后八

市入戸野四方人助多田九右采门尉下条久助  
松原権兵采尉中沢波之从同姓惣助中山九平  
次原田五右采门尉塚田善内竹内作右采门尉  
駒沢五郎九采门尉间宮甚六郎小林加兵采尉  
木村仁兵采尉萩原久右采门尉杉原仁右采门  
尉春日四郎兵采尉山下新三郎大橋八兵采尉  
杉長次郎细野弥右采门尉金尾執負从高砂太  
十郎大窪甚从岩间卿右采门尉嶋野傳之丞平  
井十九采门尉小池盗物小倉清三郎窪田与太  
夫萩原治九采门尉同姓弥兵采尉木村治九采



門尉鶴田次右末門尉小沢源兵末尉古屋小兵  
末尉鈴木孫次郎石原角兵末尉中込兵末尉  
兩宮七左末門尉日貝善五郎町田縫及助

以上城織部正力月心之士

落合九兵末尉奥山作右末門尉向山一平土屋  
新太郎河西源五郎小田切久七郎井門彦市郎  
渡边善三郎金丸友藏志村半兵末尉下新兵末  
尉其利帶力志村九兵末尉篠原友七郎小田切  
平次郎河西又兵末尉塚原友三次野呂瀨平作  
石原十次監本喜三郎市川新三郎河村新三郎

以上今福筑前守同心之士

曾根下野守小宮山泠路守奥山織部正次主水  
正古屋宮内少捕次源之丞飯島傳三郎野傳  
左末門尉野沢半左末門尉鶴田曾七郎前島源  
次郎樋羽三藏三井二郎三郎樋織部正山下三  
右末門尉太多木好吉奥山曾三郎小濱宮内少  
捕石原日向守某袋帶刀橋田孫兵末尉渡边又左  
末門尉南宮友九郎古屋助左末門尉高野外記  
石橋忠左末門尉岩間木工左末門尉竹内  
小嶋 横井 野呂 北川 横次 白川井



以上曾根下野守月心之士  
入藏兵部少輔河野又兵未尉萩原喜兵未尉樋  
口又兵未尉柏原兵四布大村又四布田中作兵  
未尉中沢新三布齊又兵未尉同姓善众小宮  
山小兵未尉田中又右未門尉同姓善五布同姓  
勝之丞井郷織部正竹野源之丞小野市之丞鷹  
野馬右助同姓戸兵未尉同姓弥兵未尉沼上新  
十布野沢宮内少輔善尾清七布三科清五布中  
沢角右未門尉鹽入又兵未尉横奈兵左未門尉  
友堂友兵未尉志村惣十布同姓惣兵未尉中沢

清三布同姓友七布内友惣兵未尉夫寫清五布  
佐熊甚右未門尉同姓友三兵未尉名取善次布  
同姓弥左未門尉石原善兵未尉三井友三兵未  
尉田中多門之助

以上今福新右未門尉月心之士  
向山久兵未尉関主水正渡边頼貞服又一布土  
屋次布右未門尉早川弥三左未門尉中村友兵  
未尉後友友三右未門尉梶尾肥後守飯高宮内  
太捕早川半兵未尉上沢義忠守細野豊後守横  
尾市左未門尉向山佐渡守落合将監丸山半右



米門尉渡邊右馬助田中源左米門尉後後久左  
米門尉高塚七郎兵米尉川野作右米門尉四官  
後右米門尉水口平太夫原田石米門尉田村助  
三布祿津小兵米尉土屋甚五兵米尉鶴田内匠  
助矢田俊左米門尉小池水右米門尉小倉源兵  
米尉月姓弥久荒川善之丞細野勘三郎青柳源  
三郎井上權兵米尉大塚新之丞関新兵米尉横  
田新八郎千野千之丞柳沢市右米門尉土橋助  
太夫平井十右米門尉細野後右米門尉中村平  
右米門尉右屋与兵米尉飯野<sup>藤</sup>右米門尉小倉又

四布相良左近一瀬平三郎伴喜右米門尉川口  
後左米門尉武後長助渡邊左太布篠本弥三左  
米門尉岩本圖書之助矢鳥小右米門尉神山惣  
太夫清水勘七郎神戶左門野田助三郎渡邊清  
七郎金丸四郎兵米尉古屋新七郎米袋九兵衛  
尉

以上是夕土屋衆卜云 太神君ノ 命ニ依  
示予井伊万千代直政ニ属ス  
太田監物加々義源次郎今福右馬助依田三郎  
左米門尉高室源三郎今福善六郎御手洗新右



赤門尉横井彦八郎石原茂次南角勘七郎古屋  
作兵赤尉鹽屋市之丞川野三右赤門尉飯田雅  
乐之助川西善十郎山下弥右赤門尉阿部又六  
市野呂瀨右近太夫

以上跡部大炊今同心之士

窪田平左赤門尉月姓作右赤門尉常田治左赤  
門尉淡江彦七郎中葛勘三郎金作惣右赤門尉  
古屋八兵赤尉月姓民戸太捕竹井織部正樋口  
五郎右赤門尉西川新兵赤尉  
以上是少駒井右京進同心之士

萩野官内助橘田又左赤門尉塚越弥三郎井口  
与兵赤尉入藏角左赤門尉坪内善之丞穂坂清  
九郎遠彦四郎兵赤尉深沢清三郎清水又兵赤  
尉月姓庄右赤門尉折井織部正飯室次郎兵赤  
尉加々美六左赤門尉市川清兵赤尉長坂右近  
助村松勘五郎岩下市左赤門尉中葛左近太夫  
月姓官内左石原二郎三郎若尾兵次古屋惣左  
赤門尉

以上跡部九郎右赤門尉同心之士

釜場弥八郎五味四郎右赤門尉竹川道物羽中



四布右米門尉田邊新兵米尉太田平九米門尉  
赤出雲守丸山次兵米尉三村清右米門尉朝比  
奈權右米門尉小林内藏人过次布兵米尉

以上并利同心之士

西山十右米門尉同姓又六布同姓宗藏山本十  
九米門尉阿部源一布西山八兵米尉茶袋鞞負

助

以上武田家直參之士

太神君 鈞命有テ山縣三布兵米尉土屋惣藏  
原隼人正一条右米門太夫カ從士七十四人及

ヒ園東浪人四十三人都テ百七十人ヲシテ井  
伊万千代直政ニ属セシメ玉フ四隊ノ士卒領  
地四万石ヲ以テ一隊ノ將トナサシメ直政カ  
從士皆以テ兵器赤色タルヘキノ由ヲ相定ラ  
ル于時石原主膳正孕石備後守廣瀬丸馬久シ  
太神君御前ニ召テ此後汝等直政ニ属シテ忠  
義ヲ勵スヘキノ旨 鈞命ヲ蒙ル

其一日 太神君甲信兩國ノ令ヲ下シ玉テ甲  
府ヲ出玉テ濱松ニ御凱旋于收成瀬吉右米門  
尉日下部兵米門尉ヲシテ甲列ノ奉行職ニナ



サシメ玉ヒ平岩七之众ヲ以テ甲及ノ郡代ニ  
定メラルル甲及先方ノ士櫻井市川伊清祓工坂  
元隨祓岩間大藏左衛門尉ヲ以テ国中ノ巷説  
ヲ聞テ註進スヘキノ旨ヲ 命セラルル成瀬目  
下部平岩等ニ加ヘシメ玉フ甲信兩國共々  
太神君ノ麾下ニ属セサルノ所アルニ依テ是  
ヲ從カハシムヘキ 命ヲ奉テ大久保七郎右  
衛門尉忠世柴田七九郎管沼大膳正甲及ニ留  
ル

天正十一年 癸未

正月大

一日 諸士濱松ノ城ニ登テ 太神君ニ謁シ  
新正ヲ祝<sup>祝</sup>シ奉ル事畢テ各若君へ参賀ス  
二日 夜ニ入濱松ノ城ニ於テ例ノ如リ御謠  
初アリ 諸士 太神君ノ御前ニ参賀ス  
六日 松平主殿助家忠濱松ニ参候シ城ニ登  
テ 太神君ニ謁シ年初之賀儀ヲ献ス  
十三日 太神君穗坂常陸公有泉大學公御書  
ヲ賜ル



為度申細の仍其家中人教急百連甲  
府以長經為新治部右少輔半思七の助十令  
後命彼指各治才河江河底又新府と相  
後時運下如如のり為肝安の如く才の仲の  
作之信海

二月十二日

徳坂常陰女

有来大子

十六日 太神君三列 毘崎ノ城ニ渡御アリ

十八日 織田信雄 毘崎ニ来テ 太神君ニ謁

見御 同話教刻ニ及フ人其故ヲ知ラス

廿日 太神君吉良ニ持シ玉フ

因正月小

一日 太神君 毘崎ノ城ヨリ濱松ニ還御

二月小

二日 松平主殿 助家 濱松ニ参候ニ城ニ登

示 太神君ニ謁ス

十二日 太神君 松平周防守 康親ニ食邑ヲ玉



心先年ヨリ豆及駿忍ノ境三牧橋ノ城ニ有テ  
相忍ノ敵ヲ拒テ其功有二依テ也

二 後列於川東或可五千貫文飼田河東二

郡ニテ<sup>郡</sup>伐之<sup>郡</sup>事一右年来在東境自昔方仕

一 下 汝忠節復同彼初行分之内山川海上野

地在一切公方締之<sup>之</sup>所死<sup>死</sup>不可相

六 日 遂報之<sup>之</sup>来場分誰申去自之<sup>之</sup>方お取可段

身側<sup>身</sup>所勢<sup>所</sup>為<sup>為</sup>心<sup>心</sup>部<sup>部</sup>郷<sup>郷</sup>之<sup>之</sup>事<sup>事</sup>中<sup>中</sup>付<sup>付</sup>公<sup>公</sup>上<sup>上</sup>心<sup>心</sup>公<sup>公</sup>沿<sup>沿</sup>津

十八 流<sup>流</sup>之<sup>之</sup>下<sup>下</sup>心<sup>心</sup>見<sup>見</sup>考<sup>考</sup>也<sup>也</sup>仍<sup>仍</sup>少<sup>少</sup>併<sup>併</sup>

十六 天正十一年

二月十八日 家康

十日 柴田七九郎甲及ノ軍勢ヲ卒シテ依久

亦日 柴田七九郎甲及ノ軍勢ヲ卒シテ依久

郡ニ軍ヲ癸シテ小諸岩尾ノ兩城ヲ圍テ攻メ

討ツ

亦二日 依田信蕃其才依田伊賀守信幸月善

九郎信春兄弟三人他ノ勢ヲ交ヘス已カ一手

ノ勢ヲ以テ岩尾ノ城ヲ速ニ拔カント荒言ヲ

吐テ信蕃及ヒ信幸信春先登ニ進テ士卒ヲ指

揮シ急ニ攻討テ即時ニ城ヲ陷ル然リトイヘ



トモ依田兄才三人各矢ニ中リ死ス岩尾ノ城  
主岩尾小次布城ヲ避テ京都ニ遷ル其後  
太神君依田兄才カ忠死シ羨セラレ常陸人信  
蕃カ嫡子源十郎二男新六郎兩輩ニ松平ノ姓  
并ニ御諱ノ字ヲ賜リ源十郎ヲ改メ松平修理  
亮康因ト号ス

三月大

四日 太神君大久保忠世ヲ信及ニ赴カシメ  
テ国中ノ乱ヲ治メシメ至テ依田信蕃死ノ子  
幼ナルヲ以テナリ於是忠世康因ト諡シテ小

諸  
城ヲ下ス

十四日 屋代左衛門尉勝永後ニ越中守ト号ス

太神君ノ麾下ニ属シテ軍忠ヲ励スヘキノ旨

ヲ酒井忠次ヲ以テ 台聽ニ達ス 太神君是

ヲ賞メ信及更科郡ヲ勝永ニ賜ル

此度被對當方可有一味由被申越之間

彼部ニ候所令領掌不可有相違然此

旨可被励忠佐者也仍如件

天正十一年

三月十四日

家康



屋代左衛門尉

八月三日 信及諏訪郡ヲ諏訪安藝守頼忠ニ

四月小

十二月 太神君御書ヲ屋代左衛門尉勝永ニ

玉

今度被属于當方幕下之段忠信之至欣

悦ニ候所真田依田有談合之表之由之

次申候也

十四日申候也

卯月十二日 家康

屋代左衛門尉

十八日 太神君重テ御書ヲ屋代勝永ニ

玉

今度被属于當方幕下之段忠信之至欣

悦ニ候所真田依田有談合之表之由之

次申候也

十四日申候也

卯月十二日 家康

羽柴秀吉柴田勝家ト江及志津カ高

柳カ湊ニ戦フ勝家大ニ敗レ越及北ノ庄ニ



於テ此月二十四日遂ニ自殺ス于取勝家  
於八日 太神君師ヲ帥テ濱松ノ城ニ御首途  
甲辰ニ御進發アリ

五月小

十日 太神君甲辰ヨリ濱松ノ城ニ御凱旋  
廿一日 太神君石川伯耆守教正ヲ御使トシ  
テ羽柴筑前守秀吉ニ初花ノ小壺ヲ贈ラレ此  
月秀吉參議ニ任シ從四位下ニ叙ス棋及大坂  
ノ城ヲ築ク<sup>テ</sup>移居ル

七月小

十一日 月來月六日 太神君信及河中嶋ニ馬  
ヲ出シ玉フヘシ軍用ヲ調ヘ供奉スヘキノ旨  
兼テ家忠ニ命セラル又其ヨリ先キ今月九  
日 太神君ノ姫君北条氏直ニ嫁セント欲ス  
是ニ依テ來ル十九日家忠濱松ニ至テ參賀ス  
ヘキノ旨 鈞命ヲ蒙ル  
十九日 姫君ノ嫁娶ニ依テ松平主殿助家忠  
濱松ニ參賀ス  
九月 先日ヨリ甚ク雨降り繼キ日ヲ經テ天  
晴レス駿遠三洪水陸地ヲ舟行カ加ニ民屋漂



蕩ス是ニ依テ今日姫君ノ簪礼御延引有テ其  
後吉日ヲ撰ハレ姫君ノ御輿相及小田原ノ城  
ニ入テ遂ニ簪礼成ル酒井九条門尉忠次是ヲ  
送り奉ル矢部四郎右衛門尉鷲殿大隅守姫君  
ニ供奉シテ小田原ニ在リ氏直刀一文字服指  
貞宗ヲ以テ忠次ニ授リ  
又一日太神君河中駕御進發ノ事洪水ニ依  
テ御延引アリ来月十二日御出馬アリキノ  
由ニ定ラル  
十一月八日大月六日

六日羽柴筑前守カ使津田九馬允濱松ニ来  
リ城ニ登テ太神君ニ謁ス秀吉カ月<sub>不</sub>行<sub>勤</sub>ヲ  
太神君ニ進セラル  
十二日太神君今日ノ御出馬故有テ御延引  
アリ  
十四日太神君法禁ヲ制シ玉ハン為濱松ノ  
城ヲ御首途甲斐ニ越<sub>赴</sub>カセ玉フ  
廿八日駿及江虎ノ城番西郷孫九郎家員ニ  
代テ松平主殿助家忠是ヲ警衛ス  
十月大



二日 太神君甲及ヨリ後列江尻ノ城ニ御飯座

四日 太神君ノ台余ヲ奉テ中久保ノ城ノ徑  
菅松平主殿助家忠是ヲ監ス家忠今日與國寺ニ至ル

五日 太神君正四位下ニ叙シ玉フ此日井山久左衛門尉力鷹見顯俊ノ夏ヲ阿部善九郎是ヲ奉ル

後列富士上方料水江鷹見顯俊地役栲別  
六日 人足拾間之令免許之事

右領掌不可有お遠和の毎年果為て進  
陰命上之恙果為不見本年之人是役てお勅之由

天正十一年 十月五日 阿部善九郎奉之

升が久松の友

七日 太神君左近兼權中將ニ任シ玉フ

十一月大

十五日 太神君後府ノ城ニ渡御アリ

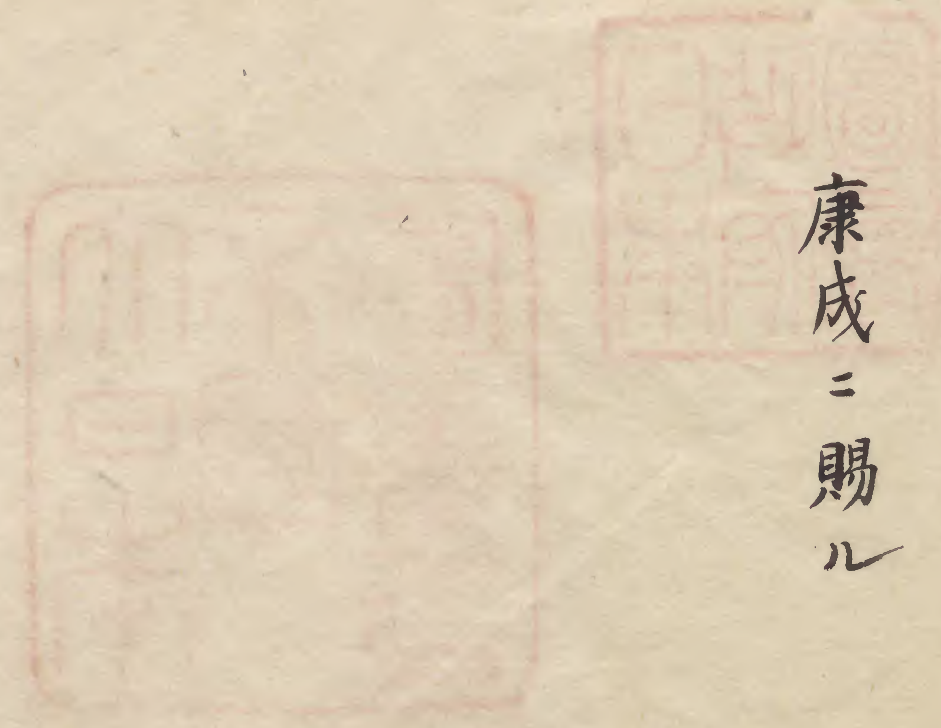
十二月大

四月 太神君濱松ノ城ニ飯リ入玉フ

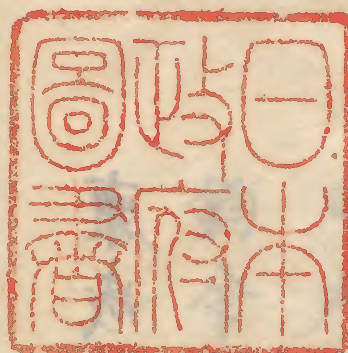


晦日 松平主殿助家忠越年ノ為メ濱松ニ参  
候シ城ニ登テ 太神君ニ謁シ歳末ヲ賀シ奉  
ル 此年 太神君ノ鈞命ニ依テ本多豊後守康重  
力女ヲシテ諏訪頼忠カ嫡子小太郎頼永後ニ因幡  
守トニ嫁セシム  
此年 太神君後列中久保ノ古墨ヲ新ニ修セ  
シメ玉ヲ稻垣平右衛門尉長茂  
鈞命ヲ奉テ此城ニ在番スル一翌年ノ十月ニ  
至ル于辰 太神君中久保ノ城ヲ牧野右馬允

康成ニ賜ル







Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '日本府立圖書館' and '中央圖書館'.



